

播州六粟郡鉄山請負御用留 目次

目録	3		
1 鉄座御請状(水谷山広地鉄座鑪)	3		
2 覚(鉄山鑪所数、鉄穴場所等の照会)	3		
3 鉄山鑪鉄口書上ケ之覚(照会に対する回答)	4		
4 鉄山御請状(野尻村滝谷鉄山)	4		
5 仕上ケ申一札之事(御蔵入分鉄山)	5		
6 乍恐奉願鉄山之御事(三方谷鉄山)	5		
7 奉願候鉄山炭木之事(公文村溝谷鉄山)	6		
8 鉄山入札(原村赤西鉄山)	6		
9 覚(赤西山と音水山の比較)	7		
10 鉄山入札(公文村奥樅木原鉄山)	7		
11 奉願鉄山砂并鉄御運上之事(東河内村・西河内村鉄山)	8		
12 差上ケ申一札之事(東河内村等一〇ヶ村鉄山並びに地方押鉄鉄御運上)	9		
13 差上ケ申一札之事(東河内村等一〇ヶ村鉄山並びに鉄御運上)	9		
14 御請負仕鉄砂山并鉄御運上之一札(東河内村等一〇ヶ村)	10		
15 奉願候鉄山砂并鉄御運上之事(東河内村・西河内村鉄山)	11		
16 御請負仕鉄砂山并鉄御運上之事(東河内村等一〇ヶ村)	11		
17 鉄山入札(河原田村阿舍利鉄山)	12		
18 乍恐書付を以奉願候御事(原村赤西鉄山請負)	13		
19 乍恐奉願候御事(河原田村阿舍利鉄山請負)	13		
20 乍恐奉願候御事(原村赤西鉄山請負)	14		
21 乍恐奉願候御事(原村鍵掛山炭山請負)	15		
22 差上ケ申家質手形之事(河原田村阿舍利鉄山)	16		
23 差上ケ申一札之事(原村赤西鉄山家質)	17		
24 差上ケ申一札之事(原村赤西鉄山家質)	18		
25 指上ケ申一札之事(原村赤西鉄山家質)	19		
26 差上ケ申家質手形之事(河原田村阿舍利鉄山)	20		
27 差上ケ申家質手形之事(原村赤西鉄山)	21		
28 差上ケ申家質手形之事(手洗測鉄山)	21		
29 指上ケ申家質手形之事(引原村音水鉄山)	23		
30 鉄山折紙之写(樅木原山)	23		
31 鉄山御定之事(原村赤西鉄山)	24		
32 (内容不詳)	24		
33 覚(公文村奥樅木原山鉄山請負許可)	24		
34 覚(原村赤西山鉄山請負許可)	24		
35 覚(河原田村阿舍利山鉄山請負許可)	24		
36 覚(原村赤西鉄山請負許可)	25		
37 覚(公文村手洗測鉄山請負許可)	25		
38 覚(引原村音水鉄山請負許可)	25		
39 覚(御代官替之節御濟状之写)	25		
40 覚(御代官替之節御濟状之写)	26		
41 覚(御代官替之節御濟状之写)	26		
42 (御代官替之節御濟状之写)	26		
43 覚(鉄山用心筒改)	26		
44 鉄山定米請取候徳損考	26		
45 千草三分一米之考	28		
46 年々鉄直段付(元禄九年〜元禄一六年)	28		
47 直段付(宝永元年〜宝永四年)	33		
48 亥極月仕切(宝永四年)	34		
49 差上申一札之事(播磨国六粟郡御代官所小)	34		

62	家質証文之事(肥後国天草附御代官所御年貢銀並びに小物成銀掛屋請負)	43	63	差上ヶ申証文之事(肥後国天草附御代官所御年貢銀並びに小物成銀掛屋田地質)	43
61	家質証文之事(肥後国天草附御代官所御年貢銀並びに小物成銀掛屋請負)	42	64	奉願候鉄山砂御運上之事(東河内村等一〇ヶ村)	44
60	家質証文之事(肥後国天草附御代官所御年貢銀並びに小物成銀掛屋請負)	42	65	口上書(宍粟郡鉄山由緒)	44
59	差上ヶ申一札(引原村音水鉄山家質)	41	66	家質証文之事(引原村音水鉄山)	45
58	(作州吉野郡御運上鉄請負につき往復書状写)	41	67	差上申一札之事(播磨国宍粟郡御代官所御年貢銀並びに小物成銀掛屋請負)	46
57	差上申田地質物手形之事(作州吉野郡塩谷山・大茅山)	40	68	乍恐奉願候鉄山扶持米之事(作州吉野郡塩谷山・大茅山)	47
56	御請負仕鉄山一札(作州吉野郡大茅村・後山村深山並びに影石村塩谷御林)	39	69	覚(宍粟郡鉄道之儀書付)	47
55	乍恐奉願上候口上書(作州吉野郡塩谷山・大茅山・後山請負)	38	70	覚(米代銀について)	49
54	巳年発炭積り	36	71	奉願候御事(音水鉄山炭木不足につき木山申請)	49
53	請取申卯ノ年御年貢米之事(手洗測鉄山・音水鉄山)	36	72	乍恐奉願候御事(公文村手洗測山・倉床村富士野山請負)	49
52	請取申寅ノ御年貢米之事(手洗測鉄山・赤西鉄山)	36			
51	未年鉄山へ請取申御米之事(赤西鉄山・樅木鉄山)	35			
50	覚(赤西鉄山・奥樅木鉄山不足米)	35			
	物成銀等掛屋請負)	34			

播州宍粟郡鉄山請負御用留

(中表紙・剥落題箋)

「承応」巳歳ヨリ元禄十五年歳迄

鉄山御請負御用留

目録

- 一 鉄山御請負証文之事
- 一 鉄山願書之事
- 一 鉄山入札之事
- 一 鉄山家質証文之事
- 一 鉄山折)紙之事
- 一 御代官替之節)御濟状之事
- 一 鉄山用心筒預)証文之事
- 一 鉄山定)米買米考之事
- 一 掛)屋請負証文之事
- 一 未年御物成不足米之事
- 一 寅卯兩年鉄山定米書替手形事
- 一 炭積書之事
- 一 田地質物)証文之事
- 一 掛屋家質)証文之事
- 一 由緒口)上候書付之事
- 一 鉄山扶持)米不足ニ付追願書之事
- 一 願書御勘定所御奥書写之事
- 一 元禄九子年より鉄直段付之事

右目録之通是二留、尤就段々ニ書附候、前後有之候也

【1】

鉄座御請状

一 水谷山之内広地鉄座鑪一ヶ所、当巳八月朔日より午七月晦日迄、壹ヶ年分御運上銀四拾枚ニ相定御請仕候、此内銀式拾枚は、為前掛と唯「 残銀式拾枚は来午「 (差上)ケ可申候事

「 船は御領分之内ニ而雇「 事

一 鉄山入用之米は、御蔵米を請取遣可申候、其外之米は一切入申間鋪候、御米之代銀は、三月・六月・九月・十二月四ヶ度ニ差上可申候、直段は前々「 三ヶ月之間、山崎之御売米「 均、其外ニ式俵ニ付三匁「 差上ケ可申候事

「 請仕通、相違之儀御座候は曲事ニ可被仰付候、為後日如件

承応式年巳八月朔日

渕本弥兵衛様

桜井源兵衛様

多賀長太夫様

松平備後守様御代

【2】

覚

一 当御代鉄山鑪何ヶ所鉄口何程宛流候哉、年々之様子書上ケ可被申事

右之通不及申候得共、相違無之様ニ

「 通随分被致吟味書上ケ可

「 段、江戸より被入御念堅被

「 可有其心得候

(一千草鉄) 山前々より今迄之様子存候通書上ケ可被申事

一千草鉄山秋之流シ初より又春留候儀、近年今程之様子書上ケ可被申事

一千草鉄山流候日限之儀、百性方より

「 御断申日限定り候哉、但

「 (百) 性相对ニ而日限定り候哉、

「 遅速応シ鉄口流シ候哉、具ニ書上ケ可被申候事

一千草鉄山川下之様子も被存候は書上ケ可被申候事、川下は赤穂へ出候由、湊之障ニ成候哉、是又書上ケ可被申候、已上

寅ノ七月十五日

如斯御書出シ被下候扣、御書出シは、七月十六日二七郎兵衛様江上ケ申候

此奥書貞把様御手跡也

【3】

鐵山鑪鐵口書上ケ之覺

一 広地山鑪老ケ所、巳ノ八月朔日より午（ノ七月晦日迄）老年分御請仕候

「 方鉄口流シ申候

山田。城。上野衆請相鉄砂、古野。皆

木九兵衛請相、飯見。齋木。徳長。但

齋木ハ庄左衛門請相

一 しゝはい山鑪老ケ所、午ノ八月朔日より酉

ノ七月晦日迄三年分御請仕候

此三年之内初老年ハ鉄口五口流申候

「 天神かい地。古野。

やふき 齋木

中老年は同三口流申候

やふき。古野。

後老年は同三口流シ申候

やふき 古野。笹山

一 まにか谷山鑪老ケ所、酉ノ八月朔日より子

ノ七月晦日迄三年分御請仕候

此三歳之内初老年は鉄口五口流申候

城。山田。旧山。古野。やふき

中老年は六口流シ申候

城。山田。旧山。古野。齋木。やふき。

後老年は同七口流申候

城 山田 旧山 やふき 古野 齋木

式口

一 まにか谷・うつのみ両山鑪二ケ所、子八月

朔日より卯ノ七月晦日迄三ケ年分御請仕候

此三年之内初老年は二ケ所分之鉄口十口

流シ申候

八条。中小屋。飯見。有賀野。齋木。

山田。城。旧山 やふき。古野。

中老年も十口流シ申候

城二口 山田 旧山 やふき二口 古

野 飯見 齋木 安賀

後老年は当秋より来年迄二而御座候故、

未流シ不申候

右御領分鉄山私御請仕候分ニ而御座候

一 千草鉄山鉄口流シ申儀、秋は彼岸ニ入申日

より流シ申候、春ハ五月中より五十日又五

十五日前ニ留申様ニ仕候得共、其年ニより

川下大庄屋より田地ニ障申と申越候時は、

秋五三日も延申候而流シ申候、春も少早留

申年も御座候、御代官所より流シ申日限御

定は無御座候、如前々之ニ仕候得と被仰付

候、川下百性と私相对ニ仕、唯今迄は流シ

申候

一 千草鉄山川下は佐用郡より赤穂郡へ出申候

得共、赤穂郡よりは湊之障ニ成申候共、田

地之障ニ成申候共、只今迄私方へは何とも

申参候儀は無御座候

右之通ニ而御座候、以上

千草屋

源右衛門

寛文貳年寅七月十六日

高木七郎兵衛様

【4】

鉄山御請状

一 野尻村之内滝谷鉄山鑪老ケ所、当酉ノ八月

朔日より子七月晦日迄三ケ年分御請仕候、

御運上銀老年分七百枚宛、内三百五拾枚は

為前掛八月ニ差上可申候、又三百五拾枚は

明ル六月ニ指上可申候、三年分御運上銀貳

千百枚ニ御請仕候事

一 鉄口之儀、八ヶ所迄は私勝手次第第二流可申

候、八ヶ所之外は一切流申間鋪候、并水谷

まんとう山ノ鉄口へ掛り申水は、三方谷之

鑪場へ付来候得共、当分三方谷へ右之水入

不申候ニ付、三ヶ年ノ間借用仕候事

一 鉄山炭焼場四方傍示御定之内ニ而炭焼可申

事

一 駄賃馬川舟は御領内ニ而雇可申事

一 鉄山入用之米・大豆は御蔵米ヲ請取遣可申

候、其外之米は一切入申間敷候、御米之代

銀毎年三月・六月・九月・十二月四ヶ度差上可申候、直段之儀は如前々之山崎御蔵売米高ノ相場平均、其外式表^表二付三匁上ケ二代銀差上可申事

右御請仕通、又御折紙之趣相違之儀御座候は曲事可被仰付候、為後日之如件

千草屋

源右衛門

寛文九年酉八月朔日

多賀長太夫様

完廿六右衛門様

大口十右衛門様

【5】

仕上ケ申一札之事

一播州完栗郡之内御蔵入分鉄山并鉄御運上銀、午ノ正月十二日より戌正月十一日迄四ヶ年之内、銀六百枚ニ御請仕、別紙ニ請負手形差上申候御事

一右四ヶ年之内、鉄直段何程下直ニ罷成候共、御運上銀少も無滞、毎年差上ケ可申候御事
一鉄山之儀、先代より被仰渡候御作法之通、少も違背申間鋪候、若猥成儀御座候は、何様ニも御法度之通可被仰付候御事
右之通少も相違申間鋪候、重々被入御念被

仰付ニ付、為後日如此御座候、若相違之儀御座候は、仕掛ケ申鉄山被召上、余仁へ可被仰付候、其時一言之儀申上間鋪候、其上如何様ニも可被仰付候、仍如件

千草屋

源右衛門

寛文六年午正月十二日

小野長左衛門様

【6】

乍恐奉願鉄山之御事

一三方谷鉄山之儀、寛文九酉ノ年迄請座御座候所、成年より丑年迄四年之間鉄山中絶仕候、就夫三谷方筋御百姓稼も無御座、第一年貢米山崎又は曳原谷鉄山遠方之前へ仰申儀銘々勝手悪敷罷成、悉ク草刈申候間、前之通鉄山被為仰付被下候得と、三方谷御百姓中御訴訟仕ニ付、延宝二寅ノ夏、池田豊前守様御奉行衆度々御相談之上ニ而、私被召寄、鉄山取立見申様ニと被仰付候故、手洗洲鉄山延宝二寅ノ九月朔日より午ノ八月晦日迄中年四ヶ年限四ツ吹ニ仕、運上銀壹ヶ年ニ付五拾枚宛四ヶ年分合式百枚差上ケ、鏝壹ヶ所御請仕候、然所ニ鉄直段下直ニ罷成、殊ニ中絶仕候御山ヲ取明ケ申儀ニ

御座候得ハ失却多ク、其上存之外鉄口悪鋪大分ニ損仕候、右之鉄山私勝手悪鋪御座候段、豊前様・数馬様兩御代御聞届被為成、百姓共救旁ニ此方より望せ候鉄山大分之損仕候段氣之毒ニ被為思召候、其上重鉄山請申者も無之、三方筋百姓勝手迄違可申候間、今一度申付候は百姓共為救之、又ハ源右衛門損料も取返させ度被為思召候間、存寄も有之候は様子申上、鉄山相続候様ニ仕候得と被仰付候、左様も御座候は兎角鉄口見立普請等ヲも仕度候間、壹ヶ年も前広より被仰付、年数ヲも御延被下候は御請仕見可申と申上候、依之右鉄山午ノ八月迄之限ニて御座候得共、一ヶ年前巳ノ年ニ御相談之上ニ而溝谷鉄山被仰付候儀は、鉄山以来迄続申様ニとの御事ニ御座候、其節御奉行衆被仰渡候は、縦運上銀御免ニ而成共可被仰付候間、随分精出し見立可申候、方々鉄口大分普請有之由ニ付、壹ヶ年前より申渡シ候、百姓勝手直候得は、数馬様御為ニ候間御請仕候得と被仰付候、然上は鉄口普請大分之儀ニ御座候間、年数ヲ六ヶ年之通被仰付候は、一ヶ年之間普請仕御請可仕候、運上之儀は前々之通差上可申由申上、延宝五巳ノ九月朔日より亥ノ八月晦日迄中年六ヶ年限

六ツ吹二仕、運上銀一ヶ年二八拾枚宛六年分合四百八拾枚ニ御請仕候、右之通三方谷御百性草刈申ニ付鉄山被仰付候得ハ、御為ニ成申由被仰出候故、普請以下ニ付前広一兩年ハ大分之損料御座候儀乍存知、末ヲ頼ニ御請仕ル事御座候間、先年相極申年数之通其俣被為仰付被下候は難有可奉存候、前書之鉄山今度御料所ニ罷成候ニ付、若入札ニ而余仁へも被為仰付儀ニ御座候は、溝谷鉄山取立申入用并鉄口普請入用・人馬集申入用・借銀等迄、其請主より私方へ相渡シ申様ニ被為仰付可被下候、六ヶ年御請仕儀ニ御座候得共、前広大分ニ銀子入置申ニ付如斯申上候、以上

播州完栗郡山崎町千草屋

源右衛門

延宝八庚申年二月廿四日

服部六左衛門様

【7】

奉願候鉄山炭木之事

一公文村之内溝谷鉄山は、延宝五巳九月朔日より来亥八月晦日迄中年六ヶ年之通御請仕罷成候、此鉄山御傍示之内炭木、当戊年中ニ伐仕廻り申候、前広御請仕候節、炭木ニ

不足有之候は可被遣由、池田敷馬様御奉行衆被仰置候、来亥ノ正月より同八月迄八ヶ月鉄吹申炭木不足御座候、引原村之内三喜安山ニ而申請度奉存候、可然様ニ被仰上被下候は忝可奉存候、尤絵凶仕差上申候三喜安山ニ残申諸木は、重而阿舍利山へ鉄山入申候得ハ足ニ木可罷成と奉存候ニ付如斯御座候、已上

千草屋

源右衛門

天和式成年三月八日

服部六左衛門様御内

奥幡忠右衛門殿

山下孫八郎殿

市川藤太夫殿

【8】

鉄山入札

一播州完栗郡御蔵入原村之内赤西鉄山鑪輔六吹壺ヶ所、御書付之通、来丑ノ正月朔日より巳ノ極月晦日迄中年五ヶ年限、一ヶ年御運上銀式百拾六枚宛、五年分合千八拾枚差上可申候御事
一御運上銀之儀、毎年前銀ハ正月、末銀は極月、両度差上可申候御事

一鉄山入用之米は、毎年御上納米千石宛御定之通鉄山着ニ而請取、代銀之儀ハ三分一御直段並仕、三月・七月・極月三ヶ度ニ差上可申候御事

一大豆之儀、年中ニ凡四拾石斗入申候、鉄山馬稼共銘々自分ニ調申儀御座候間、前々之通百性中と相對ニ而調申様ニ被為仰付可被下候御事

一鉄口之儀、御定之通六口流可申候、流シ来ル之処山悪鋪罷成候は、何方ニ而成共前々之通私勝手次第被為仰付可被下候、流申儀ハ、九月朔日より明ル二月晦日迄流可申旨奉得其意候、併年ニ寄作之構ニ成不申節は御断申上度奉存候御事

一土之口取来り申所、山悪鋪罷成候は、何方ニ而成共前々之通私勝手次第被為仰付可被下候御事

一御用之相・檜随分停止可仕候、其外勝手次第炭ニ焼可申候御事

一吹子竹之儀、前々之通鉄山近辺之在ニ而被為仰付可被下候、先規より六寸廻程之竹一ヶ年ニ五拾本或は三拾本宛毎年申請来り候得とも、近年御竹不足之由ニ御座候間、左様ニも御座候は、不足之年は私自分調可申候御事

一 鉄拔ケ壳・拔買仕者有候は、御断可申上候、
其外鉄山近辺ニ木地挽共居申候、人宿堅ク
不仕候様被為仰付可被下候御事

一 鉄山抱之者共菜雜事島并馬之草苜申儀、請
所之外ニ而も、野山之内ニ而前々之通被為
仰付可被下候御事

一家質之儀、完栗郡ニ而改証文仕、御下知次
第二差上可申候御事

右之通被為仰付被下候は、御請負申上度奉
存候、御書出之面奉得其意候、私落札ニ而
御座候は、諸事普請之儀、年内より被為仰
付可被下候、尤鉄吹申儀は、来ル正月より
吹申候得共、新山雪深成所ニ而御座候ニ付、
春中ニは普請も難仕御座候、普請仕候迎も
先座構ニ成不申様ニ可仕候間、私勝手次第
被為仰付可被下候、已上

請主播州完栗郡山崎町大津屋

伝右衛門

請人播州完栗郡山崎町

宗左衛門

貞享元甲子年七月晦日

請人播州完栗郡山崎町千草屋

与市

服部六左衛門様

右之通赤西鉄山御運上銀之儀、服部六左衛

門様御代官所之節入札被為仰付、拙者落札
ニ而御請仕候所、今度御替ニ付又々入札認
差上可申旨被為仰渡候ニ付、最前之通相認
差上申候、此已後弥相違仕間鋪候、已上

請主播州完栗郡山崎町大津屋

伝右衛門

請人同所千草屋

貞享式乙丑年十月

宗左衛門

請人同所同

与市

後藤覺右衛門様

【9】

覺

一 従先規川舟着場出石津出シ場迄、赤西鉄山
より道法八里三十丁余、此駄賃鉄壺駄ニ付
銀子三匁分と心得罷有候、音随山より道
も壺里遠、第一坂道ニ而御座候故、新道出
来次第馬持相對ニ而相極可申と奉存候、音
随山は原村往還之本道より鑪所二三町斗御
座候ニ付、馬之道も能御座候而、出荷入荷
とも二勝手能御座候、赤西は本道より壺里
三拾町斗御座候、坂道彼は二而荷物通も音
随山より殊之外悪鋪御座候御事

一 鉄砂壺ヶ年ニ壺万駄余、竈土式千駄余取込
申候、右音随山より壺ヶ年駄賃銀四貫目斗

之増、此外出荷ニ而壺貫目、都合五貫目音

随山より駄賃銀斗ニ而多ク入増可申と奉存
候、此外新道故音随よりは山深ニ而御座候
得は、道橋失却式貫目程人可申と奉存候御
事

一 音水山より赤西山は山深ニ御座候ニ付、雪
深ク人夫働悪鋪御座候、然共炭木は音随同
事ニ可有御座と奉存候御事

右之通ニ御座候、第一者鉄砂次第ニて鉄之
涌口善悪も御座候、唯今は鉄口末ニ罷成候
故、失却多ク入申候、鉄山末ニ罷成候故、
年々物入等も多入増可申と奉存候間、此趣
乍恐可然様ニ被仰上可被下候、以上

貞享元甲子年

服部六左衛門様

御奉行所

【10】

鉄山入札

一 播州完栗郡公文村之内奥樅木原鉄山炭木、
東は権現山峯切、西は引原筋境峯切、南は
東谷西谷之出合、北は但馬境峯切、此内ニ
而鑪六つ吹壺ヶ所、当辰之九月朔日より来
ル西八月晦日迄中年五ヶ年限り、壺ヶ年ニ
御運上銀百四拾六枚宛、五ヶ年分合七百三

拾枚ニ御請仕度奉存候事

一 御運上銀之儀は、前掛ケ銀ハ九月、末掛ケ銀ハ翌年三月ニ上納、五年共年々右之通ニ差上ケ可申事

一 御米代之儀は、前々之通八百石宛納米鉄山着ニ而請取、代銀ハ三分一御直段並ニ、三月・七月・極月三ケ度ニ指上ケ可申事

一 鉄口之儀御定之通六口流可申候、流シ来之所山悪鋪罷成候は、前々之通私勝手次第第二被仰付可被下候、流申儀ハ九月朔日より明ル二月晦日迄流シ可申事

一 土之口取来候所山悪鋪罷成候は、何方にて成共前々之通私勝手次第第二為御取可被下候、尤往来之外鉄砂鉄荷色々通路仕候道橋損し候は、此方より造り可申事

一 請所山之内ニ而も楢・檜・樺・楓御用木可成木ニ御座候は立置、其外之雑木ニ而炭焼可申候、若炭木不足仕候共、又ハ鉄砂流シ口悪敷御座候共、其外如何様之障御座候共、右五ヶ年御請負之内は、御定之通少も違背仕間鋪候事

附 鑪竹之儀、前々之通鉄山近辺之村ニ而被仰付可被下候、六寸廻り程之竹、壹ヶ年ニ五拾本或ハ三拾本程毎年入申候、若近村之御竹林ニ右之通之竹無御座候は、

私自分調可申候事

一 鉄山抱之者菜雜事島ハ、傍示之内ニ而作り可申候、馬草苜申儀請所之内ニ無御座候は、野山之内ニ而も前々之通被仰付可被下候事

右之通願落札ニ御座候は、被仰付可被下候御好次第第二慥成家質請人相立、手形差上御請可仕候

右之外別紙ニ差上申候定書之通違背仕間敷候、以上

播州完栗郡山崎町千草屋

源右衛門

貞享五辰ノ年五月廿五日

後藤寛右衛門様

【11】

奉願鉄山砂并鉄御運上之事

一 播州完栗郡之内千草谷東河内村・西河内村・鉄山、大坂天野屋安之・舛屋源三郎と申者、卯正月より申正月迄中年五ヶ年を限御請負仕罷有候所、鉄山不勝手ニ罷成、天野屋散々仕損、御百姓中江も迷惑を掛申ニ付、右請負之者并御百姓中共ニ同国同郡山崎町千草屋四郎右衛門と申者を頼、天野屋大分まどい銀損失仕、其上鉄山有物并取置候鉄砂・諸道具共相添、千草屋四良右衛門江已春よ

り相渡、只今迄四良右衛門相勤罷有候処、来申正月までニ而年季相濟申候、此者之跡鉄砂山御運上入札被仰触候処、望申者曾而無御座候由、依之私儀鉄山仕様能存候ニ付、何とそ相勤申様ニと御百姓中も被申候故、此度書付差上ケ申候、被為仰付被下候は、来申ノ正月十二日より丑正月十一日迄中年五ヶ年限、御運上銀壹ヶ年二百枚宛、五ヶ年分合五百枚指上ケ御請可仕御事

一 鉄砂山之儀、東河内村・西河内村・河呂村・岩野辺村・鷹巢村・黒土村・七野村・室村・西山村・斎木村、以上拾ヶ村之内、私見立次第被為仰付可被下候、両河内村鉄砂山、前々より殊之外悪敷罷成、其上炭木山御代官所ニハ曾而無御座候得は、鉄砂流候而も吹申儀不罷成候間、他国ニ而木山才覚仕、炭焼鉄吹可申覺語御座候故、其向寄近キ村ニ而鉄砂流申度奉存、右村々奉願候、尤御百姓中かせきニ勝手も好罷成候御事

一 炭木山之儀、只今迄相勤候もの伐シ透と無御座候ニ付、両河内村前々之伐かぶ又は若木等迄悉ク炭ニ焼、鉄吹候得共不足仕候故、千草谷御百姓中持林迄相對を以調鉄吹申候段私能奉存候、自今已後は曾而炭木山無御座候ニ付、勿論御代官所之内ニ而ハ少

も鉄吹不申候、依之因州・作州両国之内ニ而木山才覚仕御請可仕と奉存候、他国ニて炭木山相調候得は、是ニも御運上を出シ、其上其所江鉄砂着送り候、ケ様之儀ニも失却大分掛り申候、炭木山他国ニ而調可申儀難斗御座候得共、御請仕候上は御運上銀は無相違差上ケ申御事ニ御座候故、先座請負人より御運上銀減申候御事

右鉄山之儀私奉願候通被為仰付候は、鉄山諸色之御作法如跡々被仰付可被下候、左候ハ、両国之内炭木山早ク才覚仕相調候は、普請等支度可仕候、此度御運上銀前々より大分減候、此分ニ而御窺被成候而は相済申間鋪候間、御運上銀増候様ニと再三被仰付候得共、右申上候通ニ而御座候得は、此上少ニ而も増候儀不罷成候、私願上候通ニ而不被仰付候共無是非奉存候、已上

大坂内淡路町老丁目

龜屋 与左衛門

元禄四辛未年七月

森本惣兵衛様

【12】

差上ケ申一札之事

一播州御代官所完粟郡千草谷之内、東河内村・

西河内村・河呂村・岩延村・鷹巢・黒土村・七野村・室村・西山村・齋木村、右拾ケ村之内鉄砂山并地方押鉄鍬御運上之儀、来申正月十二日より丑正月十一日迄九年五ヶ年限、銀五百枚、壹ヶ年ニ銀百枚宛差上ケ申積り御請負仕、炭木之儀は、東河内村・西河内村之内伐尽、無御座候二付、他国之山ニ而才覚可仕候間、来正月より御代官所之内ニ而は曾而鉄吹申間鋪旨前広願書差上ケ申候処、御証文遅ク相済、其後因州之炭木山才覚仕候へハ、漸頃日相調申候、只今極寒之節雪深、普請等来春中ならてハ普請出来不仕候、其迄鉄吹申儀相止候得ハ、鉄山之人員共退散仕、事之外不勝手罷成候二付、来三月中因州炭木山普請出来仕候まで、両河内村山内ニ而鉄吹申度奉存候、尤来正月十一日迄之炭木程ならてハ無御座積御座候得共、右申上候通ニ御座候故、炭木来三月中迄有之様吹子六ツ吹を四ツ吹二仕、ほかね拾五枚押を拾枚二仕、吹申度旨願上候処、御聞届被仰付難有奉存候、然上ハ来三月中まで両河内村山内ニ而鉄吹、四月朔日より急度相止可申候、若右之旨相違仕候は、私共如何様之曲事ニも可被仰付候、為後一札差上ケ申候、仍如件

森本惣兵衛様

【13】

差上ケ申一札之事

一播州完粟郡之内千草谷之内、東河内村・西河内村・河呂村・岩延村・鷹巢村・黒土村・七野村・室村・西山村・齋木村、以上拾ケ村之内鉄砂山并鍬御運上、来申正月十二日より丑正月十一日迄中年五ヶ年限、壹ヶ年銀百枚宛、五ヶ年合五百枚差上ケ御請負仕度由願候二付、此度江戸江御窺被遊候御証文相済参候内、何様之儀出来仕候共、私共江被仰付候は弥御請負仕、前々より御作法之通御運上銀高相応之家質差上可申候、若違背仕候は、何様之曲事可被仰付候、為其一札差上ケ申候、以上

大坂内淡路町老丁目

請負人 龜屋 与左衛門

元禄四年未七月

大坂内淡路町老丁目龜屋

請負人 与左衛門

播州完粟郡山崎町千草屋

元禄四年未十一月 請人 源右衛門

同所

同断 四良右衛門

播州完栗郡山崎町

請人 千草屋 源右衛門

森本宗兵衛様

【14】

御請負仕鉄砂山并鉄御運上之一札

一 播州御代官所完栗郡千草谷之内、東河内村・西河内・河呂村・岩野辺村・鷹巣村・黒土村・七野村・宝村・西山村・斎木村、右拾ヶ村之内鉄砂山并地方押鉄御運上之儀、来申正月十二日より丑ノ正月十一日迄丸年五ヶ年を限、銀五百枚、但壹ヶ年ニ銀百枚宛差上ヶ申積御請負仕度旨御願申二付、被仰付、慥御請負仕候御事

一 炭木之儀は、東河内村・西河内村之山内伐尽無御座候二付、炭木山因州・作州ニ而御請仕、彼地江鉄砂着送り吹可申候、且又両河内山内ニ若木有之候へ共、此度御請負五ヶ年之内ハ少も伐不申、尤鑪床立申間鋪候、其外百姓衆持山之木も一切伐申間鋪候御事一鉄砂之儀は、右拾ヶ村之内ニ而勝手次第流可申候、勿論御田地用水之節は少も流シ不申、毎年八月彼岸より二月中流可申候、雖然川筋之御料・御給所より用水ニ障候由断有之候ハ、何時ニ而も早速止可申候、惣

而新規成儀又ハ百姓衆不勝手之儀など少も仕間鋪候、諸事先座之通可仕候御事

一 鉄山江入込申男女随分吟味仕、不慥成者ハ、老人も入申間敷候、毎年宗旨御改帳之義、如何様共被仰付次第仕上ヶ可申御事

一 御運上之儀、毎年百枚宛之内、三拾叁枚は其年之二月ニ差上ヶ、残り六拾七枚は同霜月ニ上納可申候、尤大黒包仕上ヶ可申御事一 毎年之御運上銀若遅引仕候は、請人より急度上納可仕候、御請負年季之内山悪敷成候共、炭木山不相調候共、鉄下直ニ成候共、米高直ニ御座候共、其外いか様之儀ニ而不勝手ニ罷成候共、其節一言之御訴訟申上間敷候御事

右之通鉄山御請負仕候上、違変之儀御座候は曲事ニ可被仰付候、若不依何事滞儀御座候敷、又は御運上銀遅々仕候は、家質被召上、其上請負人・請人共ニ如何様ニも可被仰付候、鉄山御請負之内何様之儀出来仕候共、私共罷出、急度埒明可申候、為後日一札差上ヶ申候、仍如件

大坂内淡路町壹丁目 亀屋
請負人 与左衛門
元禄四年未十一月

播州完栗郡山崎町 千草屋

請人 源右衛門
同所 同断 四良右衛門

森本惣兵衛様

右は御代官所播州完栗郡千草谷之内、東河内村・西河内村・河呂村・岩延村・鷹巣村・黒土村・七野村・室村・西山村・斎木村鉄砂山并地方押鉄御運上、去申正月十二日より来丑ノ正月十一日迄五ヶ年之間御請負仕、壹ヶ年ニ銀百枚宛、五ヶ年ニ五百枚之御運上銀差上御請負仕度旨、先御代官森本惣兵衛様江御訴訟申上候得は、御吟味之上、御公儀様へ被仰上候処、願之通被仰付、則右証文并家質手形差上置申候、尤申西兩年之御運上銀式百枚は、惣兵衛様へ差上ヶ申候、然処ニ右村々今度御自分様御代官所ニ罷成候、依之委細御吟味被遊候、右仕上置候証文之通御請負申所紛無御座候、就夫右証文を御用、此度奥書判形被仰付候二付、調差上ヶ申候、然上は右ヶ条書之通弥以御請負仕候、尤年々御運上銀無滞、急度指上ヶ可申候、若不埒之儀御座候は家質被召上、其上御公儀様江被仰上、拙者共何分之御料ニも可被仰付候、為後日仍而如件

内淡路町壺丁目 亀屋

請負人 与左衛門

播州完栗郡山崎町千草屋

請人 仙西

元禄七年戊七月

同 源右衛門

万年長十郎様

【15】

奉願候鉄山砂并鉄御運上之事

一 播州完栗郡之内千草谷東河内村・西河内村
鉄山、先年大坂天野屋安之・舛屋源三郎と
申もの五ヶ年限御請負仕候所散々仕損、御
百姓中へも迷惑を掛、其身ハ身体つぶし、
鉄山中絶可仕所、山崎町千草屋四良右衛門
と申者頼、漸年季相勤申候、其跡御運上銀
入札之儀森本惣兵衛様被仰触候所、望申も
の曾而無御座候、私儀鉄山仕様能存候二付、
相勤申様ニと御百姓中も被申候故、千草谷
拾ヶ村ニ而鉄砂を取、因州・作州之内ニ而
木山申請、鉄山取立可申と奉存候御願申上、
申ノ年より丑ノ年迄五ヶ年限、鉄砂并鉄御
運上銀一ヶ年二百枚宛、五ヶ年分合五百枚
差上ケ御請仕、只今迄因州之内ニ而木山を
請、鉄砂取越、鉄吹申候、因州木山手遠罷

成失却多、鉄山不勝手ニ御座候、当暮迄ニ

而御請之年季明申候間、仕廻可仕と奉存候

得共、鉄山無之候而ハ御百姓中かせき無之○迷惑仕候由

由、抱之人夫も多御座候得ハ、此度跡山之

儀奉願候木山手遠罷成候得ハ、御運上減候

而奉願度奉存候得共、請掛り之儀ニ御座候

間、只今迄之通一ヶ年二百枚宛、丑正月よ

り午ノ正月迄五ヶ年合五百枚ニ而御請仕度

奉存候、只今迄ハ御支配所ニ炭木無御座候

ニ付、鉄砂方被為仰付候而も、炭木相調不

申候而ハ鉄山仕候事罷成不申候、此度奉願

候年季之通被仰付候ハ、因州之内木山御

請仕、来丑正月より鉄山引ケ山仕度奉存候、

年季明鉄砂之儀被仰付、其上ニ而木山相調

候而ハ、人夫之養御百姓衆之かせき可仕様

無御座候、鉄山中絶仕候而ハ取立候も罷成

不申候ニ付、只今御願申上候、被為仰付被

下候ハ、仕掛り之儀ニ御座候間、御請申上

度奉存候

一 鉄砂山之儀、前々之通東河内村・西河内村・

河呂村・岩延村・鷹巢村・黒土村・七野村・

室村・西山村・斎木村、以上拾ヶ村之内私

見立次第被仰付可被下候、他国ニ而木山才

覚仕、炭焼鉄吹可申覚語ニ御座候故、其向

寄近キ村ニ而鉄砂流申度奉存候、尤御百姓

衆かせき勝手も好罷成候御事

一 御代官所之内炭木無御座候ニ付少も鉄吹不

申候、依之因州・作州両国之内ニ而木山才

覚仕、鉄吹可申と奉存候、他国ニ而炭木山

相調候得ハ、是ニも御運上銀を出シ、其所

江鉄砂着送り候、旁以失却大分掛り申候、

炭木山他国ニ而相調可申儀難斗奉存候得

共、鉄砂無御座候而ハ鉄山罷成不申候、鉄

砂山被仰付候て、其上にて炭木山相調申度

奉存候願候、此度奉願候鉄砂山被仰付、他

国ニ而木山調不申候共、御運上銀は無相違

差上ケ可申候御事

右鉄砂山之儀奉願候通被仰付候は、鉄山諸

色御作法如跡々被為仰付可被下候、尤御運

上銀ニ相忖家質差上ケ御請負可申上候、以

上

大坂内淡路町壺丁目亀屋

請負人 与左衛門

播州完栗郡山崎町千草屋

請人 源右衛門

元禄九年子
万年長十郎様

【16】

御請負仕鉄砂山并鉄御運上之一札

一 播州御代官所完栗郡千草谷之内、東河内村・

西河内村・河呂村・岩延村・鷹巣村・黒土村・七野村・室村・西山村・齋木村、右拾ヶ村之内鉄砂山并地方押鉄鍬御運上之儀、来丑正月十二日より午正月十一日迄九年五ヶ年を限、銀五百枚、但一ヶ年ニ銀百枚宛指上ケ申積御請負仕度旨御願申ニ付、被仰付、慥ニ御請負仕候御事

一文言前ニ有

森本惣兵衛様江上ケ候証文同事

一同断

同

一同断

同

一同断

同

一同断

同

右之通鉄山御請仕上ハ

大坂内淡路町老丁目亀屋

請負人 与左衛門

元禄九年子十一月

播州完栗郡山崎町 千草屋

請人 源右衛門

同所

同断 三十郎

万年長十郎様

【17】

鉄山入札

一播州完栗郡河原田村之内阿舍利鉄山炭木之儀、東八建割谷口より、西ハ有ヶ原越峠切有ヶ原伐残木共ニ、南ハ梨子之木山之内横落谷南ノ尾崎より、北ハ万灯尾筋万ヶ谷境限、此内ニ而鑪六ツ吹老ヶ所御運上銀四百枚宛、五ヶ年分合式千枚ニ而御請仕度奉存候事

一御運上銀之儀、前掛銀は九月、末掛銀は翌年三月ニ上納、五ヶ年共年々右之通差上ケ可申候事

一御米之儀、前々之通八百石宛御納米鉄山着ニ而請取、代銀は三分一御直段並ニ、三月・七月・極月三ヶ度ニ差上ケ可申事

一鉄口之儀御定之通六口流可申候、流来之所山悪鋪罷成候は前々之通私勝手次第被仰付可被下候、流申儀は九月朔日より明ル二月晦日まで流可申事

一土之口之儀、取来申所山悪敷罷成候ハ、何方ニ而成共前々之通私勝手次第第二御取と可被下候、尤往来之外鉄砂鉄荷通路仕候道橋損候ハ、此方より造り可申事
一請山之内ニ而も杉・檜・樅・榎・槻御用木ニ可成木御座候は立置、其外之雜木ニ而炭

燒可申候、若炭木不足仕候共、又鉄口悪鋪御座候共、其外如何様之障御座候共、右五ヶ年御請負之内は、御定之通少も違背仕間敷事

附鑪輔竹之儀、前々之通鉄山近辺之村ニ而被為仰付可被下候、六寸廻り程之竹老ヶ年ニ五拾本或ハ三拾本ほと毎年入申候、若近村之御竹林ニ右之通之竹無御座候は、私自分ニ調可申候事

一鉄山抱之者共菜雜事畠は、傍示之内ニ而作り可申候、馬之草苜申儀、請所之内ニ而無御座候は、野山之内ニても前々之通被為仰付可被下候事

右之通私落札ニ御座候は、被為仰付可被下候御好次第慥成家賃請人相立、手形ヲ指上ケ御請可仕候、何も御書出シ之通少も違背仕間鋪候、以上

播州完栗郡山崎町千草屋

源右衛門

元禄六酉ノ年

六月十五日

平岡吉左衛門様

【18】

乍恐書付を以奉願候御事

一 播州完栗郡原村之内赤西谷鉄山之儀、当戊極月晦日限二而、唯今迄之請所五ヶ年之通相濟申候、此替山之儀只今之場所より炭木遠方ニ罷成候へ共、原村之内赤西谷鉄山、東はすけのこやの平之傍示杭より、西は因幡境峯より下雑木有之いさゝ境を限、南は千草境正台ヶ峯いさゝ有之木立境を限、北は引原山と原村赤西谷峯限、此内ニ而鑪轡六ツ吹壺ヶ所、来亥正月朔日より卯極月晦日迄五ヶ年限入札仕候様ニと京・大坂・播州表御触被遊候得共、右御山望申もの無御座候、依之私儀仕掛り之御山ニ而御座候間望申候哉と御尋被成候ニ付奉願候、来亥正月朔日より卯極月晦日迄五ヶ年限、御運上壺ヶ年ニ銀百七拾枚宛、五ヶ年分合八百五拾枚ニ御請仕度奉存候、尤唯今迄は御運上銀壺ヶ年ニ貳百四拾枚宛、五ヶ年合千貳百枚差上ケ御請申上候得共、一兩年以來鉄砂不足仕候ニ付、遠方より取越候而鉄吹続申候、尤前々より有来候通六ツ吹之積りニ奉存候得共、鉄砂不足ニ付末々ニ罷成而ハ四ツ吹分なとてハ御座有間敷哉と奉存候、因

茲前々之通御運上差上ケ御請仕候儀難成奉存候、併再三御吟味之上ニ而御座候間、壺ヶ年ニ銀拾枚増シ百八拾枚宛、五ヶ年分合九百枚ニ而御請仕度奉願候御事

一 御米之儀、前々は壺ヶ年二千石宛申請候得共、前二申上候通鉄砂不足ニ付山内人数も減申候間、只今よりハ壺ヶ年ニ八百石宛御物成米之内鉄山着ニ而請取、代銀は其年之三分一御直段並、三月・七月・極月三ヶ度差上ケ可申候御事

一 鉄口之儀、御定之通六口流シ可申候、流シ来候所山悪罷成候ハ、前々之通私勝手次第被仰付可被下候、流シ申儀は九月朔日より明ル二月晦日迄流シ可申候、土之口之儀、取来申所之山悪罷成候ハ、何方ニ而成共前々之通私勝手次第御取と可被下候、尤往来之外鉄砂鉄荷通路仕候道橋損シ候ハ、此方より作り可申候御事

一 請所山之内ニ而も杉・檜・榎・樅・槻御用木ニ可成木御座候ハ、立置、其外之雑木ニ而炭焼可申候、若炭木不足仕候共、鉄砂口悪御座候共、其外如何様之障り御座候共、五ヶ年御請負之内は、御定之通少も違背仕間敷候御事

附り鑪轡竹之儀、前々之通鉄山近辺之村

二而被為仰付可被下候、六寸廻り程之竹壺ヶ年ニ五拾本或三拾本程毎年入申候、若近村之御竹林ニ右之通之竹無御座候ハ、私自分ニ調可申候御事

一 鉄山抱之者共菜雜事畑は、傍示之内ニ而作り可申候、馬之草苜申儀、請所之内ニ無御座候ハ、野山之内ニ而も前々之通被為仰付可被下候御事

右之通奉願候、被為仰付可被下候御好次第慥成家質請人相立、手形差上ケ御請可仕候、右之外別紙差上ケ申候定書之通少も違背仕間敷候、已上

播州完栗郡山崎町

千草屋

元禄七甲戌年

仙西

十月十三日

平岡吉左衛門様

【19】

乍恐奉願候御事

一 播州完栗郡河原田村之内阿舍利鉄山、西九月より寅ノ八月迄中年五ヶ年限御請仕、唯今相勤申候、右鉄山鉄砂入候道法近久、炭木能御座候様ニ奉存、其積りを以御運上銀高直ニ差上ケ御請仕候処、存之外炭木不足仕、谷々峯々傍示之内尋伐り仕候故失却

懸り、其上右之通不足仕漸来夏迄可有御座候、秋中年季明候処、年季迄相勤申儀難仕、人夫大分抱居申儀ニ御座候へは、かせき無御座迷惑ニ奉存候ニ付、今度奉願候趣は

一公文村之内手洗御山、式拾四年已前寅ノ年池田豊前守様御領知之節、四ツ吹仕御運上銀壹ヶ年五拾枚宛ニ而、中年四ヶ年を限私御請仕候処、鉄一円吹ケ不申ニ付打捨置申候、唯今外ニ木山見付不申候ニ付、右手

洗御山、東ハろくろしと押込之間尾限、西は瀧谷峯限、北ハ富士野境よりまさき谷上尾限、西ハかうの宮限、四ツ吹四ヶ年可有御座と奉存候間、此山木寅六月より午五月迄中年四ヶ年御請奉願候、御運上之儀先年之五拾枚を減候而奉願度候得共、只今抱之者かせき無御座候処、被為仰付被下候ハ、追々普請仕鉄吹続申様ニ罷成勝手能御座候間、御運上銀拾枚増、四ツ吹壹ヶ年六拾枚宛、四年分合式百四拾枚差上ケ可申候、尤炭竈打揃候上にて六ツ吹ニ可成儀ニ御座候ハ、御断可申上候間、六ツ吹被仰付可被下候、左候ハ、御運上銀五割増、壹ヶ年九拾枚宛、四ヶ年三百六拾枚差上ケ可申候、阿舎利山相勤申候内、子丑兩年米高直ニ御座候上、鉄下直ニ御座候而、重々損銀仕候、

私儀は往古より鉄山御請仕来、御百姓衆物成大分之儀ニ御座候、只今取続候へハ鉄山断絶不仕、第一私勝手能御座候間、右願之通被仰付可被下候御事

一御米之儀、四ツ吹ニ仕立候ハ、六百石宛被為仰付可被下候、六ツ吹ニ罷成候ハ、前々之通八百石宛被為仰付可被下候、代銀は其年之三分一御直段並、前々御定之通上納可仕御事

一鉄口之儀、御定之通六口流シ可申候、流シ来之所山悪敷罷成候ハ、私勝手次第何方にて成共御取せ可被下御事
一請所之内ニ而杉・檜・樅・榎・楓御用木ニ可成木御座候ハ、立置、其外雜木にて炭焼可申候、若炭不足仕候共、鉄口悪敷御座候共、如何様之障り御座候共、四ヶ年御請負之内は、御定之通少も違背仕間敷候御事
附り鑪竹之儀、前々之通鉄山近辺之村ニ而被為仰付可被下候、六寸廻り程之竹一ヶ年ニ五拾本或ハ三拾本程毎年入申候、若近村之内御竹林ニ右之通之竹無御座候ハ、私自分ニ調可申事
一鉄山抱之者共菜雜事畑、傍示之内ニ而作可申候、馬之草苻申儀、傍示之内無御座候ハ、野山之内ニ而も前々之通被為仰付可

被下候御事

一かま土之儀、傍示之内ニ無御座候ハ、前々之通何方ニ而成共私勝手次第御取せ被為成可被下候御事

右鉄山断絶不仕様ニ仕度奉存奉願候、被為仰付被下候ハ、難在可奉存候、請人之儀は御好次第慥成家實請人相立、手形差上ケ御請可仕候、以上

元禄十丁丑年

九月

山木与惣左衛門様

千草屋

源右衛門

【20】

乍恐奉願候御事

一播州完栗郡原村之内赤西鉄山、去ル亥正月より当卯之極月迄五ヶ年限私御請負仕相勤申候、其節より鉄砂山段々悪鋪罷成候ニ付、万年長十郎様御支配所より鉄砂取越、漸吹続申候、当極月迄二而年季明申候ニ付、同郡引原村之内音水山、来辰之正月より申ノ極月迄五ヶ年限御請仕度奉願候、右赤西鉄山相勤申内、米高直、鉄下直ニ罷成、大分損亡仕候、只今米高直ニ御座候得共、今五ヶ年御請仕候ハ、其内米下直ニ罷成、鉄も

直段出可申かと奉存候、然共鉄砂過半不足仕候ニ付、他領鉄砂斗ニ而吹申様ニ罷成候、左候へハ御百姓衆かせきも少ク罷成、鉄山抱之者も大分諸方江散り申儀難儀ニ奉存候ニ付奉考候は、只今私御請仕罷在候手洗淵山分之鉄口篠山と申鉄砂山、鉄砂ハ可有御座哉と奉存候得共、はなれ山ニ而井手可仕様無御座候故打捨置候、此山ニ掛樋仕候は鉄砂取可申かと奉存候、長百五拾間之掛樋ニ而過分之物入ニ而御座候得共、此普請仕鉄砂取候得ハ鉄山続申様ニ罷成候、併土底之儀見立難極御座候、此山ニ而も鉄砂得取不申候得は、無是非四ツ吹ニ可仕候得共、先有来之通六ツ吹之積ニ而奉願候御事

一 右引原村之内音水山傍示之儀は、南は高羅か谷口東平峯限但ちよし溝口ぬたノ原、西はなら谷上ノ尾限但西平ハ丸山峯限、東はござこ平下ノ尾限、来辰正月より申極月迄五ヶ年を限奉願候、此山之義古山より道法三拾丁斗遠ク罷成、駄賃銀其外失却大分掛り申候間、御運上少々ニ而御願申上度奉存候得とも、只今より被為仰付被下候へは鉄山断絶不仕様ニ普請仕候儀勝手ニ罷成候間、御運上銀壹ヶ年二百枚宛、五ヶ年分合五百枚差上ケ可申候旨当三二月より奉願候

所、御運上銀跡々御請負仕候とハ各別減候間、増候而願可申段再三御吟味被仰付奉得其意候、然共跡々御請仕候御山とハ違鉄砂無御座、其上前ニ申上候通大分之普請不仕候而は相統難仕御座候、然共御運上増不申候而は罷成候趣ニ御座候ニ付、銀五枚宛増申候て、壹ヶ年百五枚宛、五ヶ年分合五百式拾五枚差上ケ可申候、私儀往古より鉄山仕来り御百姓衆助成ニ罷成候、願之通被為仰付可被下候御事

一 御米之儀、只今迄は壹ヶ年八百石宛申請候得共、前ニ申上候通鉄砂不足ニ付山内抱之者も減候間、只今よりハ壹ヶ年ニ五百石宛御物成之内前々之通鉄山着ニ而請取、代銀は其年之三分一御直段並ニ、三月・七月・極月三ヶ度ニ差上ケ可申候御事

一 鉄砂口之儀、御定之通六口流可申候、流来之所山悪鋪罷成候は、前々之通私勝手次第被仰付可被下候御事

一 請所之内ニ而も杉・檜其外御用木ニ可成木御座候者立置、其外之雜木ニ而炭焼可申候、若炭木不足仕候共、鉄砂口悪御座候共、其外如何様之障り御座候共、五ヶ年御請負之内は御定之通少も違背仕間鋪候御事

附 鑪竹之儀、前之通鉄山之近辺之村ニテ

被為仰付可被下候、六寸廻程之竹壹ヶ年ニ五拾本或は三十本程毎年入申候、若近村之御竹林ニ右之竹無御座候は、私自分ニ調可申候

一 かま土之儀、請所之内ニ無御座候は、前々之通何方ニ而も私勝手次第第二御取と被為成可被下候御事

一 鉄山抱之者共菜雜事畑は、請所之内ニ而作可申候、馬之草苜申儀、請所之内ニ無御座候は、前々之通野山之内ニテ被為仰付可被下候御事

右之通奉願候、被為仰付被下候は難有可奉存候、御好被遊次第慥成家實請人相立、手形差上ケ御請可仕候、已上

播州完栗郡山崎町
千草屋 源右衛門
元禄拾二己卯年八月
山木与三左衛門様

【21】

乍恐奉願候御事

一 播州完栗郡原村之内鍵掛山鉄吹候炭山ニ奉願候、此御山前々鉄山被仰付炭木伐尽、峯筋ニ伐残御座候、傍示之儀は、不動滝下ノ尾より奥は峯限并赤西山伐残西平不残、来

巳ノ正月より酉之十二月まで五ヶ年限、炭

御運上銀壹ヶ年拾五枚宛、五ヶ年分合七拾

五枚差上ヶ御請負仕度奉存候、鉄砂之儀は、

万年長十郎様御代官所千草谷ニ而御請負

仕、唯今迄因州之内にて炭山買請鉄吹仕候

処、此節炭木無御座迷惑仕候、尤鍵掛山江

千草谷より鉄砂取越申儀失却多懸り不勝手

御座候得共、因州・作州之内ニ而炭山見立

申内下財共方々江散シ不申様ニ、鍵掛山に

て鉄吹申度奉願候、然処ニ御運上銀増候而

差上ヶ候様ニと段々御吟味之上被為仰付

候、此御山右申上候通失却多御座候得共、

下財共散不申儀勝手ニ罷成候ニ付右之通奉

願候、然共御下知違背難仕奉存、壹ヶ年ニ

五枚増式拾枚宛、五ヶ年分合百枚差上ヶ御

請負仕度奉存候、竈土・馬之飼草・菜雜事

畑之儀ハ、前々之通被為仰付可被下候

右奉願候通被為仰付被下候ハ、難在可奉

存候、以上

播州完栗郡山崎町

千草屋

源右衛門

元禄十三庚辰年

十一月

山木与惣左衛門様

【22】

差上ヶ申家質手形之事

一播州完栗郡御支配所之内河原田村阿舍利鉄

山、当酉九月朔日より寅八月晦日迄中年五

ヶ年を限入札被仰付候処、完栗郡山崎町千

草屋源右衛門落札ニ而、御運上銀壹ヶ年分

四百枚宛、五ヶ年分合式千枚御請仕候、右

鉄山ニ而遣申飯米之儀は、御支配所之御年

貢米之内八百石宛毎年請取、御直段之儀は、

其年之御物成三分一御直段ニ相究、上納之

儀は、右之銀高三ツニ割、三月・七月・極

月三度ニ差上ヶ申究ニ而御座候、外より一

切買米仕間敷候、自然年ニより鉄山ニ遣申

米不足仕候ハ、御断申上、外より買申儀御

下知次第ニ可仕候、依之摂州之内ニおゐて

銀式拾五貫目余之質物相立、委細別紙之手

形差上ヶ申候、其上当所山崎町ニ而此一札

之表家屋鋪五ヶ所質物ニ差上申候御事

完栗郡山崎西新町

千草屋仙西手代

一表口拾式間裏行廿七間

善七屋敷

代銀七貫三百目

但家并諸蔵酒道具名代とも

同町ニ而

同人手代

一表口拾五間半裏行拾五間

善四良屋敷

代銀八貫目

但家并諸蔵酒道具名代とも

本町ニ而

千草屋惣左衛門手代

一表口六間裏行三拾間

作兵衛家敷

代銀六貫目

但家并諸蔵酒道具名代とも

同町ニ而

千草屋仙西手代

一表口拾間四尺裏行三拾壹間

次良兵衛屋敷

代銀五貫七百目

但家并諸蔵酒道具名代共

西新町ニ而

千草屋源右衛門手代

一表口拾四間裏行十八間

久左衛門屋敷

代銀参貫目

合五ヶ所

代銀合参拾貫目

右之家屋敷為家質差上ヶ申所相違無御座

候、御運上銀并御米代上納之儀、源右衛門

不埒ニ御座候ハ、右家屋敷可被召上候、其

時一言之御断申上間鋪候、若銀子ニ而差上

ヶ申様ニと被仰渡候ハ、銀子ニ而差上ヶ

可申候、為後日之仍如件

千草屋

源右衛門

元禄六癸酉年

九月

同

仙西

同

善七

同

善四良

鍬屋
作兵衛

若狭屋

治郎兵衛

綿屋

久左衛門

平岡吉左衛門様

前書之家屋鋪土蔵拙者とも吟味仕候処少も相違無御座候、則本多肥後守様御奉行所へも相断、何方より何之構も無御座候、若右之御銀滞候ハ、家屋鋪其俣ニ而成共、又は買代替銀子ニ而成共被仰付次第第二急度取立差上ケ可申候、為其仍而如件

播州完栗郡山崎町大年寄

龍野屋

又右衛門

元禄六癸酉年九月

同断 米屋

五良太夫

平岡吉左衛門様

右之通家質証文平岡吉左衛門様江差上ケ置申候ニ付、今度弥御吟味被仰付候、右書物之通今以少も相違無御座候、源右衛門方より可差上御運上銀・御米代滞申候は、右之家屋鋪成共銀子ニ而成共被仰付次第急度差

上可申候、為其今度又奥書判形仕候所如件

千草屋

源右衛門

元禄拾丁丑年正月

千草屋

善七

千草屋

善四良

鍬屋

作兵衛

若狭屋

治良兵衛

綿屋

久左衛門

播州完栗郡山崎町大年寄龍野屋

又右衛門

同米屋

儀平

同橋屋

三郎兵衛

山木与惣左衛門様

【23】

差上ケ申一札

平岡吉左衛門様御代官所播州完栗郡原村之内赤西鉄山御運上、当亥正月より卯正月迄五ケ年之間、播州完栗郡山崎町千草屋仙西御請負之銀高九百枚、但老ケ年百八拾枚宛、

此請人尼崎町二丁目千草屋又四郎家屋鋪御改ニ付書付申覚

千草屋

又四郎

一表口八間裏行式拾間

此代銀式拾三貫目

右之家屋鋪何方江も質物ニ入不申脇より妨申ものも無御座候、御運上之御請負相濟申迄此家屋鋪売申儀は不及申上、質物ニも入させ申間鋪候、以采如何様之儀御座候而右之家屋敷被召上候共、又は五人組・年寄・月行司方江買取銀子ニ而成共、御意次第指上ケ可申候、若遅々仕候ハ、連判之者共如何様之曲事ニも可被仰付候、為後日仍而如件

尼崎町式丁目千草屋又四郎

五人組平野屋

三郎右衛門

元禄八乙亥年七月廿一日

千草屋十郎右衛門家守

同 二見屋

平右衛門

那波屋九良左衛門家守

同 玉屋

月行事 久兵衛

同 灰屋

論雲

千草屋又四郎西隣相生村屋

心常

御奉行様
年寄 荒物屋
六左衛門

御奉行様
年寄
六左衛門

仍而如件

五人組堺屋
六兵衛

元禄八乙亥年七月廿一日

【24】

差上申一札

右之通播州完栗郡赤西鉄山平岡吉左衛門様
御代官所之節、千草屋仙西御請負仕、千草
屋又四良家屋鋪代銀式拾参貫目之積家質差
上ケ置申候、右鉄山之義山木与惣左衛門様
御代官所二罷成候二付、今度弥御吟味被仰
付候、仙西義当夏相果申候得共、世悴源右
衛門右之鉄山年季之通引請支配仕、家質之
儀右証文之通弥相違無御座候、仍而為後日
此度又奥書判形取上所如件

一平岡吉左衛門様御代官所播州完栗郡原村之
内赤西鉄山御運上、当亥正月より卯ノ年迄
五ヶ年之間、播州完栗山崎町千草屋仙西御
請負之銀高九百枚、但老ヶ年二百八拾枚宛、
此請人天満旅籠町千草屋新右衛門家屋鋪御
改二付書上ケ申覺

西側(け)ら葺老軒役

千草屋

一表口五間老尺裏行拾四間

新右衛門

此代銀式貫六百目

東側取葺老軒役

千草屋

一表口五間裏行拾四間

新右衛門

此代銀式貫六百目

元禄九丙子年十二月八日
尼崎町式町目千草屋又四郎五人組堺屋
平野屋三郎右衛門儀去亥十月
家屋鋪壳立退跡買主 庄左衛門
千草屋十良右衛門家守五人組二見屋 平右衛門
那波屋九郎左衛門家守五人組玉や 久兵衛
月行司
五人組灰屋 論雲
月行司
千草屋又四郎西隣相生村屋 心常
荒物屋

右之家屋鋪何方江も質物二不入申、脇より
妨申ものも無御座候、御運上御請負相濟申
迄は、此家屋鋪壳申儀は不及申上、質物二
も入させ申間鋪候、以來如何様之儀御座候
而、右之家屋敷被召上候共、又は五人組・
年寄・月行司江買取銀子二而成共、御意次
第二差上ケ可申候、若遅々仕候ハ、連判
之者如何様之曲事二も可被仰付候、為後日

御奉行様

同 繩屋 仁兵衛
同 桑名屋 権右衛門
同 堺屋 小兵衛
同 治良兵衛
同 丹波屋 次兵衛
同 河内屋 小兵衛
同 堺屋せき代判堺屋
光吉治郎右衛門家守仙台屋 七兵衛
同 平左衛門
光吉次郎右衛門家守仙台屋 七兵衛
同 堺屋
月行司 甚右衛門
月行司 小兵衛
年寄 繩屋 仁兵衛

右之通播州完栗郡赤西鉄山、平岡吉左衛門様御代官所之節、千草屋仙西御請負仕、千草屋新右衛門家屋鋪式ケ所ニ而代銀式貫五百目之積り家質指上ケ置申候、右鉄山之儀山木与惣左衛門様御代官所ニ罷成候ニ付、此度弥御吟味被仰付候、仙西儀当夏相果申候得共、世倅源右衛門右鉄山年季之通引請支配仕、家質之儀右証文之通弥相違無御座候、仍而為後日今度又奥書判形差上申所如件

天満旅籠町千草屋
家主 新右衛門

元禄九丙子年十二月九日

五人組堺屋
六兵衛
同 繩屋
仁兵衛
同 桑名屋
権右衛門
同 堺屋
小兵衛
同 堺屋
次郎兵衛
光吉次郎右衛門家守仙台屋
五人組 七兵衛
丹波屋
同 次兵衛

堺屋せき代判堺屋

同 小兵衛

河内屋

同 平左衛門

光吉二郎右衛門家守仙台屋

同 七兵衛

繩屋

月行司 甚右衛門

同 堺屋

月行司 小兵衛

年寄 繩屋 仁兵衛

御奉行様

【25】

指上ケ申一札

一山木与惣左衛門様御代官所播州完栗郡原村之内赤西鉄山御運上、去ル亥正月より来卯十二月迄五ヶ年之間、播州完栗郡山崎町千草屋源右衛門御請負之銀高九百枚、但壹ヶ年二百八拾枚宛、此請人大坂四軒町千草屋新右衛門家屋鋪御改ニ付書上ケ申覚
南側瓦葺裏稀葺式間役 千草屋
一表口八間半四寸 新右衛門
裏行式拾間式尺五寸
此代銀拾壹貫目
右之家屋鋪、此方江も質物ニも入不申、脇

より妨申ものも無御座候、御運上之御請負相濟申迄は、此家屋敷売申儀は不及申、質物ニも入申間鋪候、以来如何様之儀御座候而、右之家屋敷被召上候共、又は五人組・年寄・月行司方江買取銀子ニ而成共、御意次第差上ケ可申候、若遅々仕候ハ、連判之もの共如何様之曲事ニも可被仰付候、為後日仍如件

千草屋新右衛門五人役
元禄十一戊寅年 船橋屋四郎兵衛屋守 円寿院
七月廿三日 同家原月仙家守亭屋

平兵衛
池田屋
同 弥兵衛
錢屋甚左衛門屋守錢屋
同 太兵衛
月行司三木屋 太郎兵衛
同近江屋玄喜屋守繪屋
当月月行司龜屋弥三兵衛他參ニ付 太右衛門
次ノ月行司 福嶋屋
年寄 長右衛門
御奉行様

右之通播州完栗郡原村之内赤西鉄山、千草

屋源右衛門御請負仕、於大坂四軒町千草屋新右衛門家屋敷代銀拾壹貫目之積り家質差上ヶ置申候、最前は天滿天神筋町二而代銀之千草屋新右衛門家屋敷家質二御取置被遊候得共、天神筋町家今度新右衛門亮替、於四軒町立替申二付、私共連判仕差上ヶ申処相違無御座候、為後日奥書判形仍如件

千草屋新右衛門五人組

舟橋屋四郎兵衛屋守

元禄十一戊寅年

円寿院

七月廿三日

同家原月仙屋守亭屋

平兵衛

五人組 池田屋

弥兵衛

同錢屋甚左衛門屋守錢屋

太兵衛

月行司三木屋

太郎兵衛

同近江屋玄喜屋守繪屋

太右衛門

年寄 福嶋屋

長右衛門

御奉行様

右阿舍利・赤西両鉄山分家質、前書二有之候通手形四通六拾九貫式百目差上ヶ申候所、御米千六百石代八拾貫目、御運上五百

七拾枚代式十四貫五百目、此家質として六拾九貫式百目不足二思召候間、百五貫目家質指上候様ニと吉左衛門様被仰付候二付、大坂久太郎町家差上ヶ候文言與二有

【26】

差上ヶ申家質手形之事

一平岡吉左衛門様御代官所播州完栗郡河原田村阿舍利鉄山、去酉九月朔日より寅之八月晦日迄中年五ヶ年限入札被仰付候処、完栗郡山崎町千草屋源右衛門落札ニ而、御運上銀壹ヶ年分四百枚宛、五ヶ年分銀合式千枚御請仕、右鉄山ニ而遣申飯米之儀ハ、御支配所之御年貢米之内八百石宛毎年請取、御直段之儀は其年之三分一米御直段ニ相究、上納之儀は右之銀高三ツニ割、三月・七月・極月三度ニ差上ヶ申究ニ而御座候、外より一切買米仕間鋪候、自然年ニより鉄山ニ而遣申米不足仕候ハ、御断申上、外より買申儀御下知次第二可仕候、依之銀五拾五貫目之家質御取被成候内、三拾貫目分ハ播州完栗郡於山崎町家質手形御取被遊候、相殘銀高之請人ニ五ヶ年之間拙者請人ニ相立、此一札之通家質指上置申候

南西角ニ而瓦葺式軒役

千草屋

一表口拾壹間裏行廿間 源助
代銀拾八貫百七拾目

右之家屋敷家質差上ヶ置申上は、自然御運上銀并御米代上納之儀滞申候ハ、右之家屋敷可被召上候、其時一言之御断申上間敷候、若銀子ニ而差上ヶ候様ニ被仰渡候ハ、此連判之者共家屋敷請取、銀子急度上納可仕候、前書之家屋敷他所江家質等ニも書入不申候、他之構少も無御座候、為後日年寄五人組連判手形差上申候、仍而如件

南久太郎町四丁目千草屋源助五人組

和泉屋

元禄八乙亥年 弥兵衛

十一月十六日

米屋久右衛門屋守

大工

五人組 仁兵衛

同 平野屋

同 甚兵衛

京屋他人幼少二付代判人

醫師

同 快庵

同 醫師

年寄 快庵

御奉行様

右之通播州完栗郡阿舍利鉄山平岡吉左衛門様御代官所之節、千草屋源右衛門御請仕、

千草屋源助家屋敷代銀拾八貫百七拾目之積家質差上ケ置申候、右鉄山之儀山木与惣左衛門様御代官所ニ罷成候ニ付、今度御吟味被仰付候、家質之儀右証文之通弥相違無御座候、仍為後日今度又奥書判形差上ケ候所如件

元禄九丙子年

十二月八日

源助
五人組
年寄

【27】

差上ケ申家質手形之事

一平岡吉左衛門様御代官所播州完栗郡原村之内赤西鉄山、当亥正月より卯極月迄中年五ヶ年限入札被仰付候所、播州完栗郡山崎町千草屋仙西落札、御運上銀高九百枚、但壹ヶ年二百八拾枚宛ニ御請仕候、右鉄山ニ而遣申飯米之儀は、御支配所之御年貢米之内八百石宛毎年請取、御直段之儀は、其年之御物成三分一米之御直段ニ相究、上納之儀は、右銀高三ツニ割、三月・七月・極月三度差上ケ申究ニ而御座候、外より一切買米仕間敷候、自然年により鉄山ニ遣申米不足仕候ハ、御断申上、外より買申儀は御下知次第可仕候、依之銀五拾貫目之家質御取被

成候内三拾九貫式百目先達而差上置申候、相殘銀高之請人ニ五ヶ年之内拙者此一札之通家質差上ケ置申候

南側瓦葺老軒役

一表口七間裏行式拾目

(間の誤りカ)

千草屋

源助

代銀拾老貫五百六拾目

右之家屋敷差上ケ置申上は、自然御運上銀并御米代上納之儀滞申候ハ、右之家屋敷可被召上候、其時一言之御断申上間敷候、若銀子ニ而差上候様被仰渡候ハ、此連判之もの共家屋敷請取、銀子急度上納可仕候、前書之家屋敷他所江家質等ニも書入不申候、他之構少も無御座候、為後日年寄・五人組連判手形差上申候、仍如件

南久太郎町四丁目千草屋源助

元禄八乙亥年

十一月十六日

河内屋

松屋

五人組 市兵衛

和泉屋

同 弥兵衛

醫師

年寄 快庵

御奉行様

右之通播州完栗郡赤西鉄山、平岡吉左衛門

様御代官所之節、千草屋仙西御請負仕、千草屋源助家屋敷代銀拾老貫五百六拾目之積り家質差上ケ置申候、右鉄山之儀山木与惣左衛門様御代官所ニ罷成候ニ付、今度御吟味被仰付候、仙西儀当夏相果申候へ共、世忤源右衛門右之鉄山年季之通引請支配仕、家質之儀右証文之通弥相違無御座候、仍而為後日又奥書判形差上ケ候所如件

元禄九丙子年十二月八日

源助
年寄
五人組

右は阿舍利・赤西両山家質百五貫目差上ケ候様被仰付候、前方六拾九貫式百目差上ケ、此度右式口ニ而式拾九貫七百三拾目差上ケ、都合九拾八貫九百三拾目差上ケ申候、今六貫七拾目不足いたし候得共、御意次第重而差上ケ可申旨○申上、○平岡吉左衛門様江右之銀高二而相濟申候、音水・手洗家質相改差上ケ候ニ付、前々差上ケ候家質不殘引替相濟申候、家質証文新右衛門殿又四郎江返進申候、以上

【28】

差上ケ申家質手形之事

一播州完粟郡御支配所之内手洗淵鉄山、当寅

六月より午五月迄中年四ヶ年限、御運上銀

一ヶ年六拾枚宛、四ヶ年分合式百四拾枚二

而、完粟郡山崎町千草屋源右衛門御請仕候、

右鉄山にて遣申飯米之儀、御支配所之御年

貢米之内六百石宛毎年受取、御直段之儀は、

其年之御物成三分一米御直段相極、上納之

儀は、右之銀高三ツ割、三月・七月・極月

三ヶ度差上ケ申究二而御座候、外より一切

買米仕間敷候、自然年により鉄山二而遣申

米不足仕候ハ、御断申上、外より買申儀御

下知次第可仕候、依之山崎町二而此一札之

表家屋敷五ヶ所家質差上ケ申候御事

完粟郡山崎西新町二而 千草屋源右衛門手代

一表口拾五間半 長右衛門屋敷

裏行拾五間 但家并諸蔵酒道具名代共

代銀七貫三百目

同町二而 同手代

一表口式拾間 与兵衛屋敷

一裏行拾六間半 但家并諸蔵酒道具名代共

代銀拾貫目

本町二而 源右衛門手代

一表口拾間四尺 次郎兵衛屋敷

裏行卅壹間 但家并諸蔵酒道具酒名代共

代銀五貫七百目

西新町二而 同手代

一表口拾式間

裏行廿七間

代銀八貫目

同丁

一表口拾四間

裏行拾八間

代銀三貫め

合五ヶ所

代銀合三拾四貫目

右之家屋敷為質物差上ケ申所相違無御座候、

御運上銀并御米代上納之儀、源右衛門不埒御

座候ハ、右之家屋敷其まゝ二而成共、又ハ

売代替銀子二而成共、差上ケ可申候、其時一

言之御断申上間敷候、為後日仍如件

善七屋敷

但家并諸蔵酒道具名代共

久左衛門屋敷

元禄十一戊寅年

六月

千草屋

長右衛門

千草屋

与兵衛

若狭屋

次郎兵衛

千草屋

善七

わたや

久左衛門

大坂内淡路町老丁目

請人亀屋

源助

山木与惣左衛門様

前書之家屋敷・土蔵此度鉄山家質被召上候

二付、私共吟味仕候所、何方より何之構も

無御座家屋敷二而御座候、則本多肥後守様

御奉行所江相断申候、若右之御銀滞申候

ハ、右之家屋敷急度差上ケさせ可申候、

為後日仍如件

播州完粟郡山崎町大年寄

元禄十一戊寅年六月

米屋 儀平

龍野屋

三郎左衛門

山木与惣左衛門様

右大年寄奥書ニ、右之銀滞候ハ、右之家屋

敷差上ケさせ可申と有之候、元禄六西九月

阿舍利山家質差上ケ候節ハ、右之御銀滞候

ハ、銀子二而成共、家屋敷二而成共差上ケ

可申と有之候二付、大年寄中より申候ハ、

先年之奥書大年寄改判形二而無之請人判二

而候、大年寄改判形候ハ、可仕由申二付、

其段三宅惣右衛門殿・小木儀右衛門殿を以、

山木与惣左衛門様江申上候处、請人より銀

子にて成共、家屋敷二而成共、差上ケ可申

と判形仕上は、大年寄より何之障りも無之

家屋敷と判形為仕候様ニ被仰付候ニ付、大年寄改之段、尤ニ思召候由被仰上候

【29】

指上ケ申家質手形之事

一 山木与惣左衛門様御代官所播州完栗郡引原村之内音水鉄山、当辰正月より申極月迄中年五ヶ年を限、播州完栗郡山崎町千草屋源右衛門御運上銀高五百式拾枚、但壹ヶ年二百五枚宛ニ御請仕候、右鉄山ニ而遣申飯米之儀は、御支配所之御年貢米之内五百石宛毎年請取、御直段之儀は、其年之御物成三分一米之御直段ニ相究、上納之儀は、高三ツ二割、三月・七月・極月三度ニ差上ケ申究ニ而御座候、外ヨリ一切買米仕間敷候、自然年ニより鉄山ニテ遣申米不足仕候ハ、御断申上、外より買申儀は御下知次第ニ可仕候、依之五ヶ年之内此一札之通家質差上ケ置申候

南側瓦葺三軒役
一表口拾五間
裏行拾三間

千草屋
源右衛門

代銀式拾貫目

右之家屋鋪差上ケ置申上は、自然御運上銀并御米代上納之儀滞候ハ、右之家屋鋪可

被召上候、其時一言之御断申上間鋪候、若銀子ニ而指上候様ニ被仰渡候は、此連判之者共家屋鋪請取、銀子急度上納可仕候、前書之家屋鋪、他所へ家質等ニも書人不申候、他之構少も無御座候、為後日年寄・五人組連判手形差上ケ申候、仍而如件

千草屋源右衛門五人組 河内屋七郎兵衛家守

後 指物屋 八右衛門

元禄十三庚辰年二月廿五日

同

和泉屋 源右衛門

同

龜屋 久兵衛

同

釘屋 五兵衛

同

和泉屋 貞心

（代判甥庄右衛門

同

大坂屋 庄兵衛

同

前 日野屋 治右衛門

年寄

伏見屋 加兵衛

御奉行様

此家質山木与惣左衛門様御代ニ入申候所御替り候所、新兵衛様より証文御改ニ付仕替上ケ候、此節ハ式拾貫目ニ入候へと新兵衛様御代、完栗かけや不殘銀付候故、右之居申家とも三拾六貫目ニ入申候文言與

二あり
此証文取替町衆へ返し申候、巳六月十三日

右音水・手洗洩両鉄山御運上銀百六拾五枚、御米千百石代銀五拾五貫目之積、銀高合六拾式貫百目、依之家質五拾八貫三百目御取可被成由被仰出候得共、五拾四貫目指上、今少之不足御断申上候処御聞届被遊候

一千草鉄山御運上家質、大坂瓦町家長十郎様江指上ケ置候、午ノ正月迄ニテ年季明申候

一大坂久太郎町家、与惣左衛門様掛屋被仰付候ニ付家質ニ指上ケ申候、掛屋銀は多ク、家質ハ少ク候間、鉄山之家質分ニ文言仕上ケ置候得と被仰付、其通ニ仕差上ケ申候、文言鉄山家質と有之候得共、鉄山家質は内淡路町家・完栗家ニ而相済、久太郎町家は掛屋家質分也

元禄拾三辰年
二月廿五日

【30】

鉄山折紙之写

縦木原山、天和三年亥九月より貞享五年辰

八月迄五ヶ年を限、御運上百拾式枚宛、服部六左衛門様御代御請仕相勤申候、此折紙見へ不申候二付、書出シ不申候
此折紙尋出し奥へ書出し

【31】

鉄山御定之事

一 原村之内赤西鉄山鑪六ツ吹壺ヶ所、東西南北御定傍示杭迄、当丑正月朔日より巳極月晦日迄（後欠）

【32】

（前欠）被甲事

右定被遣処如件

桜井源兵衛 印

明暦三酉八月朔日

多賀長太夫 印

千草屋

源右衛門殿

備後守様御折紙数通有之候とも、文言同事二付略シ一通出ス

【33】

覚

一 播州完栗郡公文村之内於奥樅木原山鉄山鑪六ツ吹壺ヶ所、銀百四拾六枚宛之御運上

二而、当辰九月より来酉之八月迄五ヶ年限、

其方江被仰付候、御運上銀之儀は、前掛は九月、末掛は翌六月、両度宛五ヶ年共可致上納、炭山傍示之儀は可為入札之通事

（翻刻者注 粉鉄カ以下同）
一 鑪口六ヶ所迄は其方勝手次第可流、日限之儀は可為前々之通候事

一 鉄拔売・拔買仕もの於有之は、此方江可申事

右鉄山入用之米は、完栗郡御物成米之内毎年八百石宛請取遣之、代銀之儀は其年三分一直段を以、三月・七月・十二月三度可有上納者也、仍而如件

後覚右衛門

貞享戊辰年九月

山崎町

源右衛門殿

【34】

覚

一 播州完栗郡原村之内於赤西山鉄山鑪六ツ吹壺ヶ所、銀百四拾枚宛御運上二而、当午正月より来戌極月迄五ヶ年を限、其方江被仰付候、御運上之義、前掛は正月、末掛は七月、両度宛五ヶ年共可致上納、炭木山傍示之儀は入札之通たるへき事

一 鉄口六ヶ所迄は其方勝手次第第二可流之、日限之儀は前々之通たるへき事

一 鉄拔売・拔買仕もの於有之ハ、此方江可申事

右鉄山入用之米は、完栗郡御物成米之内毎年千石宛請取之、代銀之儀は三分一直段を以、三月・七月・極月三度可有上納候者也、仍如件

後覚右衛門

元禄三年午正月

千草屋

四郎右衛門殿

【35】

覚

一 播州完栗郡河原田村之内阿舍利鉄山鑪六ツ吹壺ヶ所、壺ヶ年ニ銀四百枚宛之御運上二而、当酉九月より来ル寅八月迄五ヶ年を限、其方江被仰付候、御運上銀之儀は、前掛は九月、末掛は翌三月、両度宛五ヶ年共ニ可致上納、炭山傍示之儀は可為入札之通事

一 鑪口六ヶ所迄は其方勝手次第可流、日限之儀は可為前々之通事

一 鉄拔売・拔買仕もの於有之は、此方江可申

事

右鉄山入用之米は、完粟郡御物成米之内毎年八百石、宛請取遣之、代銀之儀は其年之三分一直接を以、三月・七月・十二月三度可有上納者也、仍如件

平岡吉左衛門

元禄六癸酉年

九月

千草屋

源右衛門殿

【36】

覚

一播州完粟郡原村之内於赤西鉄山鑪^(カ)六ツ吹壹ヶ所、銀百人拾枚宛之御運上ニ而、当亥正月より来卯極月迄五ヶ年限、其方江被仰付候、御運上銀之儀、前掛は正月、末掛は七月、兩度ニ可致上納、五ヶ年分運上銀高可為九百枚事

附炭木山傍示之儀は可為入札之通事

一鉄口六ヶ所迄ハ其方勝手次第可流之、日限之儀は前々之通たるへき事

一鉄拔売・拔買仕もの於有之は、此方へ可申やう事

右鉄山入用之米は、完粟郡御物成之内毎年

八百石宛請取之、代銀之儀は年々三分一段ヲ以、三月・七月・十二月三度可有上納候、仍而如件

平岡吉左衛門

元禄八年亥正月

千草屋

仙西殿

【37】

覚

一播州完粟郡公文村之内手洗洩鉄山鑪^(カ)四ツ吹壹ヶ所、壹ヶ年銀六拾枚宛之御運上ニ而、当寅ノ六月より来午ノ五月迄中年四ヶ年限、其方へ被仰付候、御運上之儀は、前掛は六月、末掛は極月、兩度宛四ヶ年共可致上納、炭山傍示之儀は別紙書付之通之事

一鑪口六ヶ所迄は其方勝手次第可流、日限之儀は可為前々之通之事

一鉄拔売・拔買仕もの於^(有振カ)之は、此方江可申事

山木与惣左衛門

元禄十一戊寅年六月

千草屋

源右衛門殿

【38】

覚

一播州完粟郡引原村之内音水鉄山鑪^(カ)六ツ吹壹ヶ所、^(一ヶ年ニ)銀百五枚宛之御運上ニ而、来辰正月より来申極月迄五ヶ年限其方へ被仰付候、御運上銀之儀は、前掛は正月、末掛^(七月)は兩度宛五ヶ年共上納可致、炭山傍示之儀は別紙書付之通事

一鑪口六ヶ所迄は其方勝手次第可流、日限之儀は可為前之通事

一鉄拔売・拔買仕もの於有之ハ、此方江可申事

右鉄山入用之米は、完粟郡御物成米内毎年五百石宛請取遣之、代銀之儀は其年之三分一直接を以、三月・七月・十二月三度可有上納者也、仍而如件

山木与惣左衛門

元禄十二己卯年閏九月

千草屋

源右衛門殿

【39】

御代官替之節御濟状之写

覚

一 播州完栗郡我等支配中、其方両鉄山御運上方諸事無滯上納皆済首尾能珍重二候、為其如此候、以上

服部六左衛門

寅八月廿三日

千草屋

源右衛門殿

【40】

播州完栗郡両鉄山、我等支配之内其方被致御請、御運上其外諸事無滯被相濟候、珍重之旨如斯候、以上

後藤覚右衛門

申七月

千草屋

源右衛門殿

【41】

覚

播州完栗郡我等支配中、其方請負両山御運上方諸事無滯上納皆済首尾能珍重二候、為其如斯候、以上(上脱)

平岡吉左衛門

丑二月

千草屋

源右衛門殿

【42】

播州完栗郡御代官所我等支配之内、鉄山御運上銀并御米代銀其外諸事無滯相濟珍重二候、以上

山木与惣左衛門

午正月

播州完栗郡山崎町

千草屋

源右衛門殿

【43】

覚

一 鉄炮式挺 内 壹挺ハ玉目三匁四分
是は阿舍利鉄山附、十ヶ年以前後藤覚右衛門様御代、鉄山用心筒願上所持仕居申候

一 鉄炮式挺 内 壹挺ハ玉目三匁四分
是は赤西鉄山附、十ヶ年以前後藤覚右衛門様御代、鉄山用心筒願上候而爾今赤西

鉄山ニ所持仕候、先年大津屋伝右衛門より書上申候へ共、私跡山仕候二付、此度書上ケ申候

右之通相違無御座候、以上

千草屋

源右衛門

元禄十五年八月十三日
山木与惣左衛門様

(朱書)

〔右阿舍利山分式挺之内、未ノ年奥樅木山出火ニ付壹挺焼、則焼筒所持仕候段御断申上候得ハ、火事之節断不申、只今其段難申上候間、右筒ヒソカニ買候而、前々より有来り筒ニ書上候得と、三宅惣大夫殿ヲ以被仰付候二付、古鉄炮買、式挺有来りト書上ケ申候
両山分四挺共矢部城助殿封印被成事〕

右鉄炮山之手代共ニ預り証文為致、此方ニ有

手洗淵山

李右衛門

音水山

喜兵衛

【44】

鉄山定米請取候徳損考

一 前々千六百石請取来候得共、大分之直間有之様ニ考候而御断申上、五百石減、只今千石受取申候、不残買米ニ成候へは徳用ニ候とも、前々より遣来候故、少も遣不申様ニハ不罷成候、御定米徳損委記ス

但御定米・買米共ニ、銀子をかり代銀払

申積り也

一米千百石

代八拾九貫目

此米ニ而兩鉄山三月迄損物米有、千六

百石ニ而八六月迄之損物有之ニ付、猶

以損多と考、五百石減申候、此分ケ奥

ニ在

内

一 式拾九貫七百匁 三月晦日上納

此銀極月限ニ借用いたし上ケ申積り

此利貳貫六百七拾三匁

一 式拾九貫七百匁 七月上納

此利壹貫四百八拾五匁

一 式拾九貫七百匁 極月上納

元利ノ九拾三貫貳百匁

壹石ニ付八拾四匁七分三厘当ル

右之米買米ニして

一米百五拾七石

六拾目替

代九貫四百貳拾目

九月入用他借仕、翌年極月限返并可仕

積り

此利壹貫五百七匁二分

一米百五拾七石 十月買

六拾五匁替

代拾貫貳百五匁

此利壹貫五百三拾目七分五厘

一米百五拾七石 十一月買

代拾貫貳百五匁

此利壹貫四百貳拾八匁七分

一米百五拾七石 十二月買

代拾貫貳百五匁

此利壹貫三百廿六匁六分五厘

一米百五拾七石 正月買

七拾貳匁かへ

代拾壹貫三百四匁

此利壹貫三百五拾六匁五分

一米百五拾七石 二月買

代拾壹貫三百四匁

此利壹貫貳百四拾三匁四分

一米百五拾七石 三月

代拾壹貫三百四匁

此利壹貫百三拾匁四分

元利ノ八拾三貫四百拾匁六分

外ニ四貫四百匁 山着駄賃

合八拾七貫八百七拾目六分

平シ七拾九匁八分八厘貳毛当ル

買米之徳用、石ニ付四匁八分五厘宛在

減シ候御米五百石ノ徳用

一米五百石 八拾壹匁、但入目共

代四拾貫五百匁

内

一 拾三貫五百匁 三月上納

但四月より極月迄利足掛り申候

此利壹貫貳百拾五匁

一 拾三貫五百匁 七月上納

此利六百七拾五匁

一 拾三貫五百匁 極月上納

ノ四拾貳貫三百九拾目

平シ八拾四匁七分八厘ニ当ル

右之米買米にして

一米百六拾六石六斗 四月

代拾壹貫六百貳拾目

但四月朔日より銀子をかり買申積り

此利壹貫四百五匁八分、四月より極月迄

利

一 銀拾壹貫六百貳拾目 五月

此利九百廿九匁六分

一 同拾壹貫六百貳拾目 六月

此利八百拾三匁四分

元利ノ三拾七貫六百四拾八匁八分

外ニ貳貫目 山着駄賃

合三拾九貫六百四拾八匁八分

平シ七拾八匁三分ニ当ル

川源	一同	五拾五匁五分	同十二月
川源	一同	五拾四匁六分	同十月
一同	一同	五拾五匁五分	同十二月
一同	一同	五拾四匁六分	同十月
新	一同	五拾七匁五分	未四月・六月 九月・十二月
川源次郎	一同	五拾七匁五分	同断
一同	一同	五拾七匁五分	同断
此所詰り候二付奥へ付出ス、			但申年分より
一同	中割	四拾壹匁三分	子七月
一同		四拾目五分	同極月
一同		三拾九匁	丑四月
一同		三拾八匁五分	同七月
一同		三拾七匁八分	同十月
一同		三拾九匁	同極月
一同		三拾九匁壹分	寅ノ四月
一同		三拾八匁八分	同七月
一同		三拾九匁	同極月
一同		三拾八匁五分	卯五月
一同		三拾八匁	同七月
中割		三拾八匁	卯九月
一同		三拾八匁三分	同極月
一同		三拾八匁	辰四月
川忠		三拾八匁	同七月

新	一同	三拾八匁三分	同断
一同	一同	三拾九匁	同極月
川源	一同	四拾目五分	同断
川源次郎	一同	四拾目五分	同断
中割		四拾目五分	巳四月
一同		四拾目五分	同七月
一同		四拾壹匁五分	同七月
一同		四拾壹匁	同七月
一同		四拾壹匁六分	同九月
一同		四拾壹匁五分	巳極月
一同		四拾三匁	同断
一同		四拾貳匁五分	同断
一同		四拾壹匁七分	同七月
一同		四拾四匁五分	午二月
一同		四拾六匁	同五月
一同		五拾貳匁五分	同極月
一同		四拾五匁	同七月
一同		四拾七匁五分	同十月
一同		五拾壹匁三分	同十月
一同		四拾六匁	同四月
一同		四拾七匁五分	同十月
一同		五拾貳匁	午十月
一同		五拾貳匁	同十二月
一同		五拾壹匁三分	同十月
一同		五拾貳匁	同極月

川源次郎	一同	五拾四匁	未四月・六月 九月・十二月
一同	一同	五拾三匁五分	右同断
此所詰り候二付、申年分より奥へ付出ス			
一同	千割	四拾五匁	子七月
一同		四拾三匁	同極月
一同		四拾壹匁五分	丑四月
一同		四拾壹匁五分	同七月
一同		四拾壹匁五分	同十月
一同		四拾貳匁	卯五月
一同		五拾貳匁	未七月
一同		五拾五匁	同九月
一同		五拾四匁五分	同九月・極月
千割		四拾壹匁	子七月
一同		三拾九匁	同極月
一同		三拾八匁	丑七月
一同		三拾八匁	同十月
一同		三拾八匁	寅ノ極月
一同		三拾七匁	卯五月
一同		五拾壹匁五分	未九月・極月
一同		五拾壹匁	同断

一銑 五拾目
 一〇 鋌 八拾五匁
 一△ 鋌 六拾三匁
 一〇 鋌 六拾目
 一三 鋌 四拾壹匁
 一△ 中割 六拾貳匁
 一〇 同 五拾七匁五分
 一〇 長延 四拾九匁
 一大千割 四拾三匁五分
 一打鉄 五拾九匁五分
 一〇 鋌 九拾貳匁
 一△ 鋌 七拾目
 一〇 鋌 六拾七匁
 一三 鋌 四拾六匁
 一銑 六拾四匁

酉極月

酉極月

戌 正月より
十月迄

一⊕ 割掛 四拾五匁
 一〇 鋌 九拾貳匁
 一△ 鋌 七拾目
 一〇 鋌 六拾七匁
 一三 鋌 四拾六匁
 一△ 中割 六拾四匁五分
 一〇 同 五拾九匁五分
 一〇 長延 五拾壹匁
 一〇 鋌 八拾七匁
 一△ 鋌 六拾五匁
 一〇 鋌 六拾貳匁
 一三 鋌 四拾三匁
 一井 鋌 三拾八匁
 一了 鋌 三拾壹匁
 一△ 中割 六拾四匁五分
 一〇 同 六拾目
 一了 千割 六拾貳匁
 一〇 長延 五拾五匁
 一了 鋌 三拾三匁

戌極月分

戌極月

是六折鉄也
但十四貫入

亥六月

一△ 中割 六拾八匁五分
 一〇 同 六拾五匁
 一了 千割 六拾三匁
 一〇 長延 五拾七匁
 一△ 中割 七拾六匁五分
 一〇 同 七拾三匁五分
 一了 千割 七拾目
 一〇 長延 五拾九匁
 一大千割 五拾六匁五分
 一三 鋌 四拾三匁

【48】

亥極月仕切

【49】

差上申一札之事

一私儀、播磨国完栗郡御代官所小物成銀・御
 運上銀・鉄山御払米代銀掛屋奉願御請負仕
 候、常是包諸入用掛欠大坂御金蔵御上納御
 銀箱繩菰共一式請切仕、銀壹貫目二付七匁
 宛之掛賃二而御請仕候事

一御銀下改仕候ため私方江受取申候、且又大坂御上納之節も、御銀私方土蔵ニ入置申候、右之節火事・盗人其外如何様之儀ニ而も御銀紛失仕候は、急度相弁可申候、若不埒成儀も御座候は、千草屋源右衛門鉄山家質差上置候分可被召上候、此度掛屋被仰付候ニ付、外ニ家質可差上筈ニ御座候得共、右之通源右衛門鉄山家質銀高差上置候故、御断申上候事

一御銀若私慾仕候ハ、何時成共掛屋御取上ケ、其上いか様ニも可被仰付候、尤掛屋被仰付候内は、何ケ年も此手形御用可被下候、為後日仍如件

大坂内淡路町老丁目

亀屋

掛屋 源助

元禄拾一年寅七月

播州完栗郡山崎町

千草屋 源右衛門

山木与惣左衛門様

右亀屋源助・千草屋源右衛門義槌成者ニ而御座候ニ付、私請人ニ相立掛屋為仕、源助受取候御銀若引負仕候敷紛失仕候ハ、本人は不及申上、私方へ御掛り可被遊候、いか程ニテも相弁指上可申候、其外源助不届

之儀も御座候ハ、私共ニ何分ニも可被仰付候、尤掛屋被仰付候内は、何ケ年も此手形御用可被下候、若私身代潰候敷当立退候ハ、前方急度御断申上、請人立替可申候、且又前書之通若不埒成儀も御座候ハ、千草屋源右衛門差上ケ置候鉄山家質御押可被成との儀承知仕候、私罷出急度埒明可申候、仍如件

播州完栗郡山崎町

千草屋

請人 惣左衛門

寅ノ七月

右掛賃七匁と有之候、完栗ニ而御納銀は、七匁前々より請取来候、三分一御掛屋並ニ被遊被下候様ニ申上候処、御聞届被遊、前之通仕候得と被仰付候、辰ノ春与三左衛門様大坂御屋鋪江御越被遊候ニ付、又四郎儀請判仕せ可申由申上、判形仕候、以上掛賃之儀、完栗ニ而掛賃ハ老貫目ニ付八匁五分、大坂ニ而ハ七匁宛請取申候、尤同断申上候此通ニ仕候 又四郎

【50】

覚

一米千八百石

赤西鉄山 両鉄山
奥樫木鉄山

未八月より申八月請取分

内

六百石代銀 申三月覚右衛門様へ上納
六百石代銀 申七月覚右衛門様へ上納
ベテ六百石 申極月上納可仕分

内

四百七拾老石六斗九升八合

両鉄山鉄口共ニ請取

此代銀式拾五貫目

残米百式拾八石三斗式合

右不足米之内鉄山江村々より上り申儀も可有御座候得共、去暮迄私方へ書替ニ参不申候ニ付、先右不足米指扣、銀子指上ケ申候、以上

源右衛門

酉ノ二月十五日

黒沢与次右衛門殿

右之通書付ヲ以御断申上候所、御勘定指支候間、代銀ハ先皆済仕候へ、不足米は可被仰付由、与次兵衛殿被仰付候、千八百石代銀皆済仕候、然所不埒ニ候故、吉左衛門様御支配御請取被遊候節、大野郷右衛門殿・山下孫八郎殿へ書付を以申上候趣は奥ニあり

【51】

未年鉄山へ請取申御米事

合千六百七拾壹石五斗壹合五勺

但赤西山・樺木山両鉄山御定り米千八百石之内

残百貳拾八石四斗九升八合五勺

右之御米不足仕候ニ付、銀子上納之儀御断
申上候得共、先指上ケ申様ニと被仰付、任
御意千八百石代銀不残上納仕候、不足米爾
今相済不申迷惑ニ奉存候、急ニ上ケ申様ニ
奉願候、以上

千草屋

源右衛門

元禄七年戌ノ二月廿一日

大野郷右衛門様

山下孫八郎様

右鉄山不足米、段々御断申上置候、与惣左
衛門様御替之節も三宅惣大夫殿迄御物語仕
候、右不足高之内

一五石六斗 市場村

一貳石 須行名村

一八石八斗 福知村

一廿三石壹斗五升 安賀村

三拾九石七斗五升

此分大野郷右衛門殿・山下孫八郎殿御吟味
之上、村々より鉄山へ上り不申由被仰候
テ八拾八石七斗四升八合五勺

此分鉄山へ相渡シ預り手形取置候得共、
質物ニ置、此方へ書替ニ不参候、依之未
ノ年小手形書替不仕候、御公儀米不足三
十九石余之様ニ被仰候へ共、此方不足百
廿八石四斗九升八合五勺ニ而候

此分鉄山へ相渡シ預り手形取置候得共、
質物ニ置、此方へ書替ニ不参候、依之未
ノ年小手形書替不仕候、御公儀米不足三
十九石余之様ニ被仰候へ共、此方不足百
廿八石四斗九升八合五勺ニ而候

【52】

請取申寅ノ御年貢米之事

米合千四百石也

右は手洗泷鉄山・赤西鉄山両所扶持方米ニ
慥ニ請取申候、右之代銀、卯三月・七月・
十二月三ヶ度ニ上納仕相済申候、依之度々
差上ケ置申候小手形此度引替申ニ付、証文
仍如件

千草屋

源右衛門

元禄拾二卯年十二月卅日

赤木直右衛門殿

高橋助大夫殿

【53】

請取申卯ノ御年貢米之事

米合千百石也

右は手洗泷鉄山・音水鉄山、鉄山両所扶持
米慥ニ請取申候、右之代銀ハ、三月・七月・

極月三ヶ度ニ上納仕相済申候、依之度々差
上ケ置申候小手形此度引替申候ニ付、証文
仍如件

千草屋

源右衛門

元禄十四辛巳年二月

赤木直右衛門殿

(朱書)

「右寅・卯兩年書替手形出し申候、此手形此方江歸り
不申候而も不苦候、為其留置候也」

【54】

巳年發炭積り

一都多五千俵 巳年之高

一五分五厘 焼元

一貳厘 庄屋

一壹分 手代

一四厘 納屋立入用

一貳分五厘 駄賃平シ

一貳厘 出石

一三厘 銀ノ利

老刃壹厘 出石着

一五分五厘 海川大坂ニ而問屋口錢共

合壹匁五分六り

外ニ

六分 巳年御運上
ズ式匁壹分六り 大坂着

一三方五千五百俵 巳ノ年之高

一四分五厘 焼元

一壹分壹り 小出し

一貳厘 庄屋

一壹分壹厘 納屋手代

一貳厘 出石

一三り 銀之利

一四厘 駄賃

ズ式匁壹分四り 出石着

一五分五厘 海川大坂ニ而問屋口錢とも

外

四分貳厘 巳年御運上

ズ式匁壹分壹厘 大坂着

一福知五百俵 巳之年之高

一四分五り 焼賃

一壹分四り 小出し

一貳り 庄屋

一四分 駄賃

一貳り 出石

一三り 銀利

ズ式匁六り 出石着

一五分五り 海川大坂ニ而問屋口錢

外

五分 巳年御運上

ズ式匁壹分壹り 大坂着

(朱書)

「右三ヶ所、銀之利三厘と有之候、是ハ廻り早
ク候ゆへ三りニて候、自是先ハ五厘宛也」

一野尻五千俵 巳年之高

一七分 焼元

一壹分 たつ縄・竈うち

一壹分 手代納屋入用

一貳り 庄屋

一五り 銀ノ利

一五分四り 駄ちん

一貳り 出石

ズ式匁五分三り 出石着

一五分五り 海川大坂ニ而問屋口錢

外

壹分八り み年運上

合式匁貳分六り 大坂着

一まにか谷壹万俵 みのとし高

一五分 やきもと

一壹分 たて縄・かまうち

一貳り 庄屋

一三り 普請

一七り 手代

一貳り 出石

一五り 銀ノ利

一六分九り 駄ちん

ズ式匁四分八り

一五分五り 海川大坂迄問屋口錢とも

ズ式匁三り 出石着

外ニ

貳分三り 巳年御運上

合式匁貳分六り 大坂着

一瀧山六千俵 巳年之高

一五分八り 焼元

一三り 普請

一七厘 手代

一壹分 たつ縄・かま打入用

一貳り 庄屋

一五り かね之利

一五分八り 駄賃

一貳り 出石

ズ式匁四分五り

一五分五り 海川大坂ニて問や口錢共

式宛

外二

壹分八厘 巳年御運上

合式宛壹分八厘 大坂着

(朱書)

「右口々炭老俵之貫目、御公儀前ハ正之六貫目と仕候得とも、皆掛ニテ八貫目ニ罷成申候、右口々之内ニも都多山ハ七貫三百目より七貫五百目迄有之候」

【55】

乍恐奉願上候口上書

一作州吉野郡之内塩谷山・大茅山・後山三ヶ所より鉄吹出ス御運上銀壹ヶ年分銀貳百枚宛、卯八月より申八月迄五ヶ年限御運上銀都合千枚ニ而、作州吉野郡古町村仁兵衛・同国津山町堺屋小七郎・備後川北村十郎右衛門為三人御請負任、卯秋より山入仕候、然共三ヶ所老度ニ鉄吹立申儀諸事差支、塩谷山老ヶ所漸普請を仕負せ鉄稼少宛仕候、大茅山ハ普請ヲ仕掛、後山は未山入も不仕其俣立置申候、右請負人共鉄山不功者故、三ヶ所一度ニ御請負申上、如斯仕損シ、当辰御運上銀上納不得仕候ニ付、家質

被召上、其上急度曲事可被仰付旨被仰渡候、依之拙者共先山師共と相對仕候而、御

運上銀ヲ弁差上ケ可申間、鉄山相續仕候様ニ被仰付可被下候、前方より御断申上候通、三ヶ所一度ニ鉄吹申儀、外財・日用等万事ニ差支、鉄砂不自由ニ而難勤御座候間、三ヶ所之内式ヶ所ハ巳ノ年より申ノ年まで四ヶ年ニ相勤、残老ヶ所は西ノ年より子ノ年迄四ヶ年ニ為兩人山数引分相勤申度目論見ニ仕候、尤御運上銀は山数年割符ニ被召上可被下候、高辻千枚之都合増減は無御座候、御百姓衆駄賃ヲ附、鉄砂を取、日用等作間之稼ニも罷成候事ニ御座候而、願之通被仰付可被下候

御運上銀割符上納之次第

一 銀高千枚 塩谷山(三ヶ所鉄山五ヶ年限、但一ヶ所之割一ヶ年分銀六拾六枚廿八匁余ニ当ル) 後山

内分ヶ 貳百枚 三ヶ所辰ノ年分、先山師上納仕筈、私共より此度弁差上ケ申候

巳ノ年上納 百三拾四枚 塩谷山 請負人山崎町伊右衛門
大茅山 請人同所千草屋三十郎
午ノ年上納 百三拾四枚 同山 請負人 右同人
未年上納 百三拾四枚 同山 請負人 右同人

申ノ年上納 百三拾四枚 同山 請負人 右同人

酉年上納 六拾六枚 後山 請負人三方村嘉兵衛

戌年上納 六拾六枚 同山 請人 山崎町但馬屋雷五右衛門

亥年上納 六拾六枚 同山 請負人 右同人

子年上納 六拾六枚 同山 請負人 右同人

右之通鉄山三ヶ所之内塩谷・大茅式ヶ所は、巳より申ノ年迄、播州完栗郡山崎町伊右衛門相勤、後山一ヶ所は、西より子年迄同郡三方村嘉兵衛相勤様ニ被為仰付被下候ハ、御定之質物之儀は、伊右衛門方より金百三拾四兩分、嘉兵衛方より六拾六兩分、都合金貳百兩分之質物銘々ニ指上ケ置、鉄山相續仕、御運上銀年々無滯急度上納可仕候、鉄山諸事御定之儀并買上ケ米千石之儀も、先御証文之通、御請負之内其年之御払米最初入札御直段壹石ニ付銀貳分宛増候而現銀ニ可申請候、願之通被仰付被下候ハ、難有可奉存候

元禄十三年 同所 千草屋 請負人 伊右衛門

辰十一月 請人 三十郎

同国同郡三方村

請負人 嘉兵衛

同国同郡山崎町但馬屋

請人 理右衛門

内山七兵衛様

【56】

御請負仕鉄山一札

一作州御代官所吉野郡大茅村・後山村深山之
雜木、影石村之内塩谷御林之雜木、右三ヶ
所鉄山炭二焼、鑪三ヶ所当辰ノ霜月より子
霜月迄八ヶ年を限、御運上銀千枚、此内式
百枚ハ当極月差上ヶ可申候、巳ノ年より申
ノ年迄四ヶ年ハ壹ヶ年ニ〇六拾六枚宛指上
〇百三十四枚宛、西ノ年より子ノ年迄四ヶ年ハ壹ヶ年ニ
ヶ、都合千枚ニ而御請仕、初四年ハ鑪式ヶ
所、後四ヶ年ハ鑪壹ヶ所仕立可申旨奉願御
請負仕候御事

附毎年御運上銀高、二月・八月兩度ニ急

度上納可仕候事

一鉄砂流山之儀、私見立次第取立可申候、砂
流日限之儀は御当国初之御事ニ而、前之定
無御座候、播州鉄山数年流來候通相勤可申
候、御田地用水之節は〇流相止可申候、尤田
畑障不罷成様ニ可仕候、若御田地へ障申候
は、其百姓中相對を以地子ヲ出し候而成共、

難儀無之様可仕候御事

一炭木不足仕他国ニ而買請鉄砂取越候儀は、
私勝手次第被仰付可被下候、然上は木山無
之候共、御定之通御運上銀上納可仕候、鉄
吹申竈土之儀は、請所之内無御座候は、何
方ニ而も勝手次第御取せ可被下候御事
一鉄山抱之者飯米之儀は、毎年御払米最初入
札落直段壹石ニ付銀式分宛増之、米千石宛
可被下御定御座候、勿論代銀差上ヶ候節、
御米御渡可被下候御事

一鉄山稼日用之者、随分吟味仕、慥成者共召
抱可申候、尤毎年宗門吟味仕、手形指上ヶ
可申候御事

一炭山之儀、塩谷御林山雜木之分鉄山炭二焼、
檜・杉・樅・榎・楓・松類御用木ニ可成分
伐採申間鋪候御事

一牛馬繫場・雜事畑之儀、所々ニ而傍示ヲ立
御渡シ被成、外荒シ不申様、馬方・牛飼等
ニも急度可申付候、勿論雜事畑無之所ニ而
候は、百姓中と致相對、本畑を預り地子ヲ
出し候得而成共、野菜等作可仕候御事

一他国より諸商人入込不申様可仕候并遊女・
野良芸能師、惣而遊興之類之者、一円入申
間鋪御事

一博奕堅停止可仕候候、不依何事かけの諸勝

負一円仕せ申間敷候

附火用心堅可申付候御事

一八ヶ年砂流之内山本川筋田畑障申敷、呑水
又は如何様之儀有之百姓中難儀旨訴被出候
ハ、其段能々御吟味被遊可被遣候、其上
ニ而障候段紛無御座候ハ、御山停止可被
仰付候、何程之仕入仕損銀大分ニ御座候共、
御運上銀之儀は、月勘定又ハいか様ニ成共、
其節被仰渡次第無遲滞指上ヶ可申候御事

一御請負之内御威光ヲ以於所々かさつ之儀毛
頭仕間鋪候、此旨日用之者下々至迄急度申
渡、少も不届之儀不仕様相守可申候御事

一駄賃人足賃銀之儀、山中難所里道共其行程
ニしたかい賃銀究、時々払之、村々難儀無
之様可仕候、直段之儀は以相對極候様可仕
候、手支之儀も御座候は御断可申上候、何
国之人馬成共勝手次第雇候様被仰付可被下
候御事

一仲間申合之儀、兼而末々迄滞無之様ニ定書
仕、致判形、違変無之様可仕候、惣而不依
何儀仲間出入之儀一円申上間鋪候御事
右之通鉄山御請負仕候上少も違背仕間敷
候、若相違之儀出来仕候ハ、指上ヶ置候
家質被召上、其上請負人・請人共何分之曲
事ニも可被仰付候、為後日御請負証文仍如

件

播州完栗郡山崎町

請主 伊右衛門

元禄十三辰霜月

同所千草屋

請人 三十郎

同国同郡三方村

請主 嘉兵衛

同国同郡山崎町但馬屋

請人 理右衛門

内山七兵衛様

【57】

差上申田地質物手形之事

万年長十郎様御代官所播州完栗郡西河内村

一高參拾五石三斗九升六合

此田畠式町六反八畝廿六歩 小前名寄別帳ニ指上ケ申候

外

一山林三ヶ所

一家壺ヶ所

一蔵一ヶ所

代金百三拾四兩

右は作州吉野郡之内塩谷山・大茅山両所鉄山、巳午未申四ヶ年限、壺ヶ年分御運上銀百參拾四枚ツ、四ヶ年分都合五百三拾六枚差上ケ可申御定ニテ、播州完栗郡山崎町

請負人伊右衛門、同所千草屋三十郎請人ニ

罷立御請負就被仰付候、御定之通違變為仕

間鋪、金百三拾四兩之為質物右之田畠・山

林・家屋鋪差上ケ置申候、於此田地御公儀

御請負質物は不及申、脇々江之質物書人ニ

壹畝壹歩之所成共入置不申、惣而右田地へ

掛り候未進勿論其外借銀・借米一切無御座

候、若御定之御運上銀滞申候歟、其外不依

何儀質物被召上候ハ、加判之者とも方江

右田地請取置被仰付候、日限少も無遲滞、

右金百三拾四兩急度上納可仕候、此已後山

崩川欠出来仕候共、金高少も減申間敷候、

若障有之田地不吟味仕書上ケ申候歟、又は

質物被召上候節、名所書替之儀杯仕候ハ、

何分之曲事ニも可被仰付候、為其庄屋・年

寄加判仕指上ケ申候、御請負無相違相済申

候ハ、其節此証文御返シ可被下候、為後

日連判証文仍如件

万年長十郎様御代官所播州完栗郡西河内村

田地主 源右衛門

元禄十四年巳正月

同村年寄

六右衛門

同村庄屋

治郎左衛門

内山七兵衛様

右之田地吟味仕候所少も他之構無御座候、

若此質物被召上候節ハ、前書之通少も無遲

滞、急度可申付候、以上

播州完栗郡千草町

大庄屋 清右衛門

(貼紙)

「右証文田地小前奥ニ写、米百石追願書奥ニあり」

万年長十郎様御代官所

播州完栗郡西河内村

一上田八畝拾貳歩

くぼ田

高老石六斗六升三合

一中田壹町七畝七歩

梯木田
向田

高拾八石三斗三升九合

一下田貳反壹畝七歩

梯木田
もち

高三石五升九合

一下々田五反九畝廿六歩

ほき
池田
きし山

高七石六升五合

一屋鋪三畝壹歩

高五斗壹升九合

一上畑貳反壹畝拾貳歩

かい地

高老石九斗四升八合

一中畑壹反貳畝四歩

同所

高九斗式升式合

一下畑壹反四畝廿八歩

高九斗壹升壹合

一下々畑貳反拾九歩

高九斗七升

田畑畝数合式町六反八畝廿六歩
此高三拾五石三斗九升六合

外二

一家壹軒

一蔵壹ヶ所

一林三ヶ所

右代金百三拾四兩

右は山崎町千草屋三十郎・伊右衛門御請負
之鉄山為質物、同町千草屋源右衛門当村所
持之家・田地・山林差上ヶ申候二付、御水
帳之通書拔、少も相違無御座候、諸事御定
之儀は別紙証文差上ヶ置申候、仍如件

元禄拾四巳年正月

内山七兵衛様

右之通吟味仕相違無御座候、以上

播州完栗郡千草町

大庄屋 清右衛門

【58】

未得御意候得共一筆致啓上候、然は内山七兵
衛御代官所作州吉野郡御運上鉄山、去辰十一
月より来子年迄中年八ヶ年、御城下山崎町千
草屋三十郎・但馬屋利右衛門・千草屋伊右衛
門并三方村加兵衛御請負山稼仕候、右之者共
御請負之内御用在之候節は呼出シ可申付候、
且又千草屋源右衛門西河内村所持之田畠・山
林・家屋敷、右御請負質物差上ヶ置申候間、
左様御心得可被下候、此旨各様迄私共方より
得御意候様二と七兵衛申付、如斯御座候、恐
惶謹言

四月十一日

依田利助

岡村秋右衛門

磯部小右衛門様

倉橋弥一右衛門様

右御返事

如仰未得御意候、然は七兵衛様御代官所作州
吉野郡御運上鉄山、去辰十一月より来子ノ年

迄中年八ヶ年、当町千草屋三十郎・但馬屋利

右衛門・千草屋伊右衛門并三方村加兵衛御請
負山稼仕候二付、右之者共御請負之内御用在
之節は御呼出し被成候由御尤奉存候、且又千
草屋源右衛門西河内村所持之田畑・山林・家
屋敷、右御請負質物指上申候付、其段私共方
江被仰聞様二七兵衛様御意之由奉承知候、西
河内村は万年長十郎様御支配所之由二御座
候、左様御心得可被成候
○恐惶謹言

四月十二日

倉橋弥一右衛門

磯部小右衛門

岡村秋右衛門様

依田利助様

右は作州鉄山為御付届御奉行様へ御状参
候、使小原町市郎兵衛十一日二持参、翌十
二日御返事取帰ル

【59】

差上ヶ申一札

一播州完栗郡引原村之内音水鉄山、去辰之正
月より申極月迄中年五ヶ年限、壹ヶ年百五
枚宛二而、播州完栗郡山崎町千草屋源右衛
門御請仕候二付、私家屋敷御改二付書上ヶ

申候

東西かと三軒役

一表口拾八間裏行廿間

代銀三拾五貫目

千草屋

源助

右之家屋敷質物ニ差上ケ置候上は、鉄山御請仕候内御運上銀・御米代銀相滞候ハ、右之家屋敷可被召上候、其時一言之御断申上間敷候、前書之家屋敷他之構少も無御座候ニ付、加判仕差上申候、以上

源助家守播磨屋

長左衛門

同五人組医師

久也

同河内屋

喜右衛門

同椀屋小よし家守

松や 市兵衛

同平野屋

甚兵衛

同平野屋

庄右衛門

同河内屋

六兵衛

同京屋

他人

同米屋久右衛門家守

大工 仁兵衛

五人役河内屋

彦右衛門

年寄榎並屋

彦左衛門

山木与惣左衛門様

右家は、鉄山家質ニ入候文言ニ而候へとも、掛屋被仰付候ニ付掛屋家質ニ入候、御替り被成節御返シ可被成由御約束ニ付、此度天草江御替り被成候故、御約束之通御返シ被下候、判形久太郎町へ戻シ申候

【60】

家質証文之事

一肥後国天草附御代官所御年貢銀并小物成銀掛屋、大坂内淡路町壱丁目千草屋源助御請負仕候ニ付、家質差上ケ申候事

家主千草屋

源助

一表口拾八間裏行廿間

代銀四拾貫目

右之家屋敷家質ニ差上ケ申候、尤何方江も質物入不申候、脇より妨申もの無御座候、源助掛屋被仰付候内は、右之家屋敷売払候儀は不及申上、外之質物ニも為入申間敷候、若源助御銀引負仕候ハ、何時にても右之家屋敷ニ而成共、右之代銀ニ而売立銀ニ而成共、御指図次第第二急度差上ケ可申候、源助掛屋被仰付候内は、五ヶ年此手形御用可

被下候、為後日仍家質証文如件

源助家守はりまや

長左衛門

元禄十四年

巳四月八日

同五人組医師

久也

同河内屋

喜右衛門

同椀屋小よし家守

松屋 市兵衛

同平野屋

甚兵衛

同平野や

庄右衛門

同河内や

六兵衛

同京屋他人家守いよや

甚右衛門

同米や久右衛門家守大工

仁兵衛

五人組河内や

彦右衛門

年寄榎並や

彦左衛門

山木与惣左衛門様

前書証文取戻シ、三月十七日ニ戻ス

【61】

家質証文之事

一肥後国天草附御代官所御年貢銀并小物成銀
掛屋、大坂内淡路町壱丁目千草屋源助御請
負仕候二付、家質差上ケ申候事

北側中屋敷式軒役

家主千草屋

一表口四拾五間裏行廿間

源助

代銀拾貫目

右之家屋敷家質差上ケ申候、尤何方へも質
物二入不申、脇より妨申もの無御座候、源
助掛屋被仰付候内は、右之家屋敷売払候儀
は不及申上、外之質物ニ為入申間敷候、若
源助御銀引負仕候ハ、何時ニ而も右之家
屋敷ニ而成共、右之代銀ニ而売立銀ニ而成
共、御指図次第第二急度差上ケ可申候、源助
掛屋被仰付候内は、幾年ニ而も此手形御用
可被下候、為後日仍家質証文如件

五人組綿屋

喜左衛門

元禄十四年

同 池田屋

巳四月廿七日

同 五郎兵衛

同 小刀屋善右衛門屋守

同 市郎右衛門

同 泉屋

同 源兵衛

同 てしまや源七家守

同 六兵衛

年寄矢並や

惣右衛門

山木与惣左衛門様

前書証文取戻シ、三月十七日二戻ス

【62】

家質証文之事

一肥後国天草附御代官所御年貢銀并小物成銀
掛屋、大坂内淡路町壱丁目千草屋源助御請
負仕候二付、播州完栗郡山崎町ニ而家質差
上ケ申候事

西新町南側老竿

家主千草や

一表口拾六間裏行拾七間

源右衛門居屋敷

同南側式竿

一表口八間裏行拾間

同断

片原町三竿

一表口拾五間壱尺裏行拾六間

同断

右之家屋敷家蔵共

家主千草や

一表口七間半裏行拾七間半 三十郎居屋敷

但家蔵共

代銀廿貫目

右之家屋敷家質ニ差上ケ申候、尤何方江も
質物等二入不申候、脇より妨申もの無御座
候、源助掛屋被仰付候内は、右之家屋敷売
払儀は不及申上、外之質物等ニも入申間敷
候、若源助御銀引負仕候ハ、何時にても
右之家屋敷成共、右之代銀銀子ニ而成共、

御指図次第第二急度埒明可申候、源助掛屋被
仰付候内は、此手形御用可被下候、為後日
家質証文仍如件

播州完栗郡山崎町千草や

源右衛門

元禄十四年

同

三十郎

山木与惣左衛門様

右之家屋敷此度源助掛屋御請仕候二付、源右
衛門・三十郎より家質差上ケ申候、此家屋
敷何之構も無御座候、御銀相滞儀御座候
ハ、家屋敷差上させ可申上候

西新町年寄千草や

嘉兵衛

前書証文取戻し、三月十七日二戻ス

【63】

差上ケ申証文之事

一肥後国天草附御代官所御年貢銀并小物成銀
掛屋、大坂内淡路町壱丁目千草や源助御請
負仕候二付、大坂伝法川口鳥嶋・佃嶋式ケ
所新田、田地質ニ差上ケ申候事

新田地主伏見や

七郎兵衛

一新田拾五町五反

代銀百五拾五匁

右之田地質物ニ差上ケ申候、尤何方へも質

物等二入不申候、脇より妨申者無御座候、源助掛屋被仰付候内は、右之田地売払候儀は不及申上、外之質物等二も入申間敷候、若源助御銀引負仕候ハ、何時ニ而も右之田地ニ而成共、右之代銀銀子ニ而成共、御指図次第第二急度埒明可申候、源助掛屋被仰付候内は、此手形御用可被下候、為後日仍田地質物証文如件

元禄十四年 大坂南瓦町三丁目地主伏見や
巳六月 庄屋 七郎兵衛

此方下請
ノ証文取
返し、諸
事相済申
候
同 伏見両替町式丁目伏見や
年寄 次兵衛
同 道修町老丁目備前や
年寄 六郎兵衛

山木与惣左衛門様

前書証文取戻シ、三月十七日戻ス

【64】

奉願候鉄山砂御運上之事

一 播州完粟之内千草谷、東河内村・西河内村・河呂村・岩野辺村・鷹巢村・黒土村・室村・西山村・七野村・齋木村、以上拾ヶ村之内鉄砂并地方押之劔・鍬座共、御運上銀壹ヶ年百枚宛ニ而、去ル丑ノ正月より来午ノ正月迄五ヶ年を限御請仕、因州之内ニ而木山調鉄吹申候処、来午ノ正月迄ニ而年季相濟

申候、子ノ年奉願候節、最早鉄砂前々之通出来不仕候、木山も次第第二手遠ニ罷成候得共、仕掛り之儀ニ御座候ニ付奉願相勤申所米段々高直ニ罷成候上、鉄次第二下直ニ御座候而、重て損銀仕致迷惑候、因州之内木山も手近ハ伐尽、手遠ニ罷成申候、米高直鉄下直之時節ニ御座候得は、米今少下直ニ罷成候時節奉願度奉存候得共、私儀往古ヨリ鉄山仕来候得は、数拾年養申下財共稼無御座候而は迷惑仕候、其上下財諸方江散候而は、重而鉄山取立可申儀罷成不申候、何とぞ時節到来迄養候ハ、其内ニハ細木もふとり、鉄吹候炭も出来仕候得は、鉄山相続可仕と奉存候、左候得は御百姓衆稼も中絶不仕、鉄山も断絶不仕候間、来午正月ヨリ亥正月迄五ヶ年限奉願候、只今迄は鉄砂并地方押劔・鍬座此三口御請負申上候得共、鉄下直ニ而地方劔并鍬一円売不申候間、此度は右式口除、鉄砂山斗奉願候御事

一 御運上銀之儀、壹ヶ年三拾枚宛ニ而、午ノ正月より亥正月迄中年五ヶ年分、合百五拾枚差上御請負可仕候旨奉願候所、前々より各別減候而は御取上難被為成由被仰付候、跡々御請仕候時節とハ違、米過半高直罷成鉄下直ニ御座候得は、御運上銀増候儀迷惑

奉存候得共、下財養置候ハ、又々鉄山相続可仕と奉存候間、五枚増壹ヶ年三拾五枚宛、五ヶ年分合百七拾五枚差上ケ可申上候、地方劔・鍬座御運上之儀は、縦年季之内ニ而も、鉄売出候節、御吟味之上何分御下知次第御運上銀差上ケ可申候御事

一 鉄砂流申儀は、右之拾ヶ村之内私見立次第被仰付可被下候、吹炭向寄近キ村ニ而鉄砂流し申度奉存候、御百姓衆助成大分之儀ニ御座候御事

右之通被為聞召分被為仰付被下候ハ、難有可奉存候、縦米弥高直ニ罷成候共、無相違御運上銀差上ケ可申候、尤御運上銀ニ応家質差上ケ御請負可申上候、鉄山式法之儀は前々之通被為仰付可被下候、以上

播州完粟山崎町千草屋
請負人 源右衛門 (印)
元禄十四辛巳年
五月四日
大坂内淡路町老丁目千草や
請人 源助 (印)
万年長十郎様

【65】

右之願書差上ケ候節、前々より鉄山御請仕来候年数、又ハ御運上銀高下御尋被成候ニ

付、書付差上候

口上書

一 播州完粟郡鉄山、寛永二年丑ノ年初而請座
 二 被仰付候、当巳ノ年迄七拾八年罷成候、
 私先祖源右衛門と申者、寛永十四年丑ノ年
 より御請仕、私迄六拾七年相續御請仕候、
 尤五年・三年宛、京・大坂より御請仕候得
 共、相續不仕、山師仕たをれ剩或欠落仕、
 又は年季之内より私江頼候而仕候儀も御座
 候、依之二限とも相勤不申候、私儀鉄山数
 拾年相勤候所、子ノ年より今年二至迄、米
 過半之直段鉄下直迷惑仕候

一 千草鉄山延宝元丑ノ年迄鑪式ヶ所或は三ヶ
 所御座候得は、炭木伐尽、寅年より他国ニ
 而炭木を調吹申候、依之鉄砂并地方鋏座斗
 御請仕候、然所二天和式年戌ノ年鑪入、申
 ノ年迄二限鉄吹申候、前々伐残り弥伐尽、
 元禄五年申年より当年迄拾ヶ年鑪入不申、
 鉄砂他国江取越鉄吹申候、鉄砂并地方
 取越鉄仕候事

一 遠藤新兵衛様御支配所鉄山之儀御尋被遊
 候、鉄山式ヶ所御座候、老ヶ所ハ平岡吉左
 衛門様御代、阿舍利鉄山老ヶ年四百枚宛ニ
 而被仰付候、此跡山山木与惣左衛門様御代、

老ヶ年六拾枚宛ニ被仰付、只今相勤申候、
 今老ヶ所ハ赤西山、是も吉左衛門様御代、
 老ヶ年百八拾枚ニ而被仰付候、此跡山老ヶ
 年百五枚宛ニテ与惣左衛門様被仰付、只今
 相勤申候

右之通ニ御座候、鉄山請座ニ罷成候以前は
 地方鋏斗ニ而御座候様ニ及承申候、此初り
 何年ニ罷成候も存候もの無御座候、以上

千草や

源右衛門

巳五月四日

藤代源右衛門様

武間弥右衛門様

右之通慥身上候、御請書奉願上候

【66】

家質証文之事

一 播州完粟郡引原村之内音水鉄山、去辰正月
 より申極月迄中年五ヶ年を限、播州完粟郡
 山崎町千草屋源右衛門御運上銀高五百貳拾
 五枚、但老ヶ年百五枚宛ニ而御請仕候、依
 之私共家屋敷御改被成候ニ付書上ケ申候事

南側瓦葺三軒役 内あわち町一丁目千草や
 一表口拾五間裏行拾二間 源右衛門

南側瓦葺老軒役 同所千草や
 一表口三間裏行拾三間 源助
 酒名代道具とも

此代銀三拾六貫目

右之家屋敷家質ニ指上ケ申候、尤何方へも
 質物ニ入不申、他之構無御座候、自然御運
 上銀相滞申候ハ、右之家屋敷可被召上候、
 其時一言之御断申上ましく候、若銀子ニ而
 指上ケ申様ニ仰渡候ハ、右之家屋敷売代
 替、急度指上ケ可申候、為後日加判仕指上
 ケ申候、以上

ひのや

次右衛門

釘や

元禄十四年巳六月十二日 喜助

大坂や

遠藤新兵衛様 庄兵衛

いつみや

貞心

代判甥庄右衛門

かめや

小兵衛

釘や

五兵衛

かめや

久兵衛

いつみや

源右衛門

さし物や

八右衛門

ならや

長兵衛

ふしみや

次右衛門

あほしや

源右衛門

代判次右衛門

釘や

喜助

千草や

源右衛門

同

源助

右之通町衆判形頼申候二付、町内之手形は奉取可有由前書二有之通認、奥書二此通いたし手形出し申候文言ニ

右前書之通ニ各加判を頼、此度遠藤新兵衛様へ家質証文指上ケ置候、若右之御運上銀少ニ而も相滞申節、右之家屋敷被召上候とも、其時一言之御断申間敷候、勿論銀子ニ而指上ケ候様ニ被仰付候ハ、右加判之各々少も構ひ不申、我々兩人方より右銀高無相違御上納仕、埒明可申候、為後日下証文仍如件

巳六月十二日

千草や源右衛門

同 源助

伏見や嘉兵衛殿

五人組中

右之通手形町衆へ出し申候

此証文町内より戻り申候、新長二付
宝永十六年丑十二月、大坂より下ル

【67】

差上申一札之事

一私儀播磨国完栗郡御代官所御年貢銀并小物成銀掛屋奉願御請負仕候、常是包諸入用掛賃・大坂御金蔵御上納御銀繩菰共一式請切仕、銀壹貫匁二付七匁宛之掛賃ニ而御請負仕候事

一御銀下改仕候ため私方江請取申候、且又大坂御上納之節も、御銀私方土蔵ニ入置申候、若右之時節、火事・盗人其外如何様之儀ニ而も御銀紛失仕候ハ、私方より急度相弁可申候、若不埒成儀も御座候ハ、千草屋源右衛門鉄山家質差上ケ置候分可被召上候、此度掛屋被仰付候二付、外ニ家質可差上筈ニ御座候得共、右之通源右衛門銀高差上置候故、御断申上候事
一御銀若仕欲仕候ハ、何時成共掛屋御取上ケ、其上如何様共可被仰付候、掛屋被仰付

候内は、何ヶ年も此手形御用可被下候、以上

大坂内あわち町

千草や

源助

元禄十四

巳五月朔日

遠藤新兵衛様

右千草や源助慥成者ニ御座候二付、私請人ニ相立、掛屋為仕候、源助請取候御銀、若引負仕候而紛失仕候ハ、本人は不及申上、私方江御掛り可被成候、如何程ニ候而も相弁差上ケ可申候、其外源助不届之儀も御座候ハ、私共何分ニも可被仰付候、尤掛屋被仰付候内は、何ヶ年も此手形御用可被下候、若私身体潰候か、当所立退候ハ、前方御断申上、請人立替可申候、仍如件

尼崎町式丁目

千草や

又四郎

巳五月朔日

千草や

源右衛門

右之証文取戻し、未四月廿五日ニ又四郎様御判御とり上被成候

【68】

乍恐奉願候鉄山扶持米事

一鉄山扶持米之儀、御払米之内千石宛毎年申請、御直段は最初入札御直段石ニ付銀式分増ニ而現銀ニ買上ケ可申旨、先山師願之通此度も被為仰付難有奉存候、御米代銀之儀、於大坂御銀改所新田屋彦左衛門方江為替ニ而相渡し、其請取手形ヲ指上ケ、御米請取可申候、然共遠方之事ニ御座候得は、若大風雨満水等ニ相障為替手形道中ニて遲滞仕節、御米得不申請候而ハ少之間も鉄山之者共及飢難儀仕候、依其金子百兩分之田地質物指上ケ置可申候間、為替銀手形參着不仕候共、御米百石迄は鉄山ニ指置候、私下代請取手形を以御渡し可被下候、願之通被為仰付被下候は、有難可奉存候、以上

播州完栗郡山崎町

伊右衛門

同所千草屋

三十郎

元禄十四年

巳正月

内山七兵衛様

【69】

御巡見

菊池平蔵様
三宅清左衛門様
曾増五左衛門様

一 元禄拾四巳五月十九日、網干より完栗郡江御移被成、同田井村廿二日御泊、三十郎御目見仕候処ニ、完栗郡鉄山之儀書付指上ケ申様ニ御意被成候ニ付、則書付三方町ニて廿四日朝上ケ申候、書付之写左ニ記
覚

一 鉄山之儀、或は五年、或三年四年と年を限御請負仕候、尤御山善悪、道法遠近并米直段・鉄値段高下ヲ相考、御運上之儀積申候
一 鉄砂口之儀、鉄山壱ヶ所ニ六口宛流申様ニ相極居申候、但前々は何ヶ所ニ而も勝手次第二流申候得共、砂多出候由川下網干より御断申ニ付、松平備前守様御領知之節、寛文十一年亥八月より鉄山式ヶ所ニ鉄砂口拾式口ニ被仰付候、尤流申日限、秋は彼岸明候日より流、春は五月之中ハ拾日前を相考、川下百姓衆江相談之上ニ而留申候、但鉄砂口一ヶ所ニ人数拾五或廿人余もかかり候而働申候、以前は砂能出来仕候故、拾人或拾二三人ニ而砂取申候、其上鉄山壱ヶ所ニ三口・四口宛流申所、近年砂不出来ニ付、六口流候而も不足仕候、其故殊外高直ニ出来

仕候

一 鉄砂取様之儀、山奥より五町・拾丁或壱里も溝ヲ堀、砂之有之候処へ水ヲ掛候而、山ヲ堀流、川端江砂ヲ流寄、荒砂と鉄砂と洗分候而、鑪場へ着送り申候、此道法凡式里或三里余も御座候、段々場数多、遠近御座候
一 鉄山抱之者、壱ヶ所ニ凡五百人斗、此内三百四五拾人かせぎ仕候、扶持米九合、賃銀三分或四分五分遣シ申候
一 鑪より吹出シ申銃、六ツ吹山ニ而壱ヶ年ニ凡式千五百駄より三千駄も鑪申候、此銃ヲ鍛冶屋へ入候而中割・千割杯と申地鉄ニ仕出シ申候、尤銃ニ而も出シ申候、是ハ鑪鉄ニ壳申候
一 鍛冶屋賃銀之儀、大工ハ壱人役式匁或式匁五分、手子ハ六分七分或八分九分宛遣シ申候、仕事出入口又は割鉄之品ニより申候
一 鑪ニ而竈ヲ塗、鉄吹候者ヲ職人と申候、鑪壱ヶ所ニ四人宛指置申候、賃銀夜二壱匁或ハ式匁遣シ申候
一 鑪ニ而吹子ヲ指申者を番子と申候、是は昼夜ニ賃銀壱匁或ハ壱匁式三分宛、仕事之上下ニより遣シ申候
一 手洗淵山より出石御津出シ場迄七里半

一音水山より出石御津出シ場まで九里

枚宛

節は、三分一米御直段七拾目ニ而御座候、

一池田豊前守様御領地手洗洲山、延宝二年寅

一服部六左衛門様御支配赤西山、貞享三年丑

此直段違壺石ニ付拾六匁宛高直ニ罷成候、

八月より午ノ八月迄四ヶ年限、御運上銀始

正月より巳極月迄六ツ吹五ヶ年限、御運上

手洗洲山御定米六百石ニ而、九貫六百目直

壺ヶ年八四ツ吹五拾枚、後三年六ツ吹七拾

銀壺ヶ年式百拾六枚、大津屋伝右衛門御請

段違御座候

五枚、鑱悪ク三ヶ年ニ而仕廻申候

仕候

一阿舍利山六ツ吹、御運上銀四百枚宛差上ケ

一同数馬様御領地溝谷山、延宝五年巳九月よ

一後藤覚右衛門様御支配赤西山六ツ吹、元禄

申候、四ツ吹ニして八拾壺貫五百目斗ノ積

り亥ノ八月迄六ヶ年之限、御運上銀六ツ吹

三年午正月より戌十二月迄五ヶ年限、御運

りニ御座候

壺ヶ年八拾枚宛

上銀壺ヶ年式百四拾枚宛

内

但末年より後四年御蔵入ニ罷成申候、御

一平岡吉左衛門様御支配赤西山六ツ吹、元禄

九貫六百目 右米直段違御座候

代官服部六左衛門様

八年亥正月より卯極月迄五ヶ年限、御運上

残壺貫九百目

一服部六左衛門様御支配樅木原山六ツ吹、天

銀壺ヶ年百八拾枚宛

手洗洲山之御運上ニ指上可申積り候様ニ相

和三年亥九月より貞享五年辰八月迄五ヶ年

一山木与惣左衛門様御支配音水山六ツ吹、元

見之申候、然共只今六拾枚宛差上ケ申候、

限、御運上銀百拾式枚

禄十三年辰ノ正月より申ノ極月迄五ヶ年

尤阿舍利山御請仕候節と手洗洲山御請仕候

一後藤覚右衛門様御支配奥樅木原山六ツ吹、

限、御運上銀壺ヶ年百五拾枚宛

節ハ鉄直段大分ニ下直ニ御座候、左候得ハ

貞享五年辰八月より酉八月迄五ヶ年限、御

一鍵掛山、巳正月より酉十二月迄五ヶ年限木

仕当ニ相かたく御座候得共、御請仕候年数

運上銀壺ヶ年百四拾六枚宛

山斗、御運上銀壺ヶ年式拾枚宛ニ而御請仕、

之内米も下直ニ罷成、鉄直段も上り可申哉

一平岡吉左衛門様御支配阿舍利山六ツ吹、元

未普請不仕候、是は鉄砂山無御座候故、他

と奉存御願申上候、然所米は結句高直ニ罷

禄六年酉九月より寅ノ八月迄五ヶ年限、御

領ニ而鉄砂山御請仕取越申義ニ御座候、此

成、鉄直段は上り不申迷惑仕候

運上銀壺ヶ年四百枚宛

御山之義、以前二三ヶ度鉄山被仰付、其伐

一赤西山六ツ吹、御運上銀百八拾枚ニ而御請

一山木与惣左衛門様御支配手洗洲山四ツ吹、

残少宛谷峯ニ御座候木ヲ御請仕候、五ヶ年

仕候、其節は三分一米御直段石ニ付五拾六

元禄十一年寅六月より午ノ五月迄四ヶ年

鉄吹続申山ニ而は無御座候得共、因州・作

匁ニ而御座候、音水山御請仕候節は、三分

限、御運上銀壺ヶ年六拾枚宛

州木山見立申内鉄山抱之者諸方へ散不申様

一米御直段八拾六匁ニ而御座候、此直段違

一服部六左衛門様御支配音水山、江戸多賀井

二、足休之為右年数御請仕候

壺石ニ付三拾目宛高直ニ罷成候、音水山扶

甫閑御請負仕候、延宝八申正月より子極月

一阿舍利山御請仕候節、三分一米御直段石ニ

持米五百石斗入申候、此直段違凡拾五貫目

迄五ヶ年限、六ツ吹運上銀壺ヶ年三百拾式

付五拾四匁ニ而御座候、手洗洲山御請仕候

斗高直ニ罷成申内三貫目余ハ御運上ニ而減

し申候得共、未大分違御座候、然共木山勝手能可有御座候と見立申二付、人夫之見込も御座候、其上五ヶ年御請仕居申内、米下直二罷成、鉄も直段上り可申哉と奉考候二付、当分は仕当二相不申候得とも御請仕候、其節よりも米直段ハ少々下り申候、鉄直段は未上り不申候

右之通積リヲ以年々鉄山御請負仕儀御座候、上方辺又は他国より御請負仕儀時々御座候得共、五年三年ニ而仕舞申候、私義先祖より六十年余年以来無懈怠鉄山仕義ニ御座候、近年は米高直ニ而不勝手ニ御座候以上

千草屋
源右衛門

元禄十四年
巳五月

【70】

覚

一辰年米百五拾石斗大庄屋中より預り申候、代銀段々ニ相渡シ申候、直段之儀は銀子相渡シ候節、或五拾石三拾石宛直段相極申候右之外米預り不申候、未差引不仕候故、少之違ハ可在御座哉と奉存候、以上

千草屋
煩源右衛門子 三十郎
印判
巳五月廿四日
同手代
甚兵衛
書判
御巡見様

【71】

奉願候御事

一音水鉄山、去ル辰ノ正月より申ノ極月迄中年五ヶ年を限、鉄山六ツ吹鑪壺ケ所御請仕、唯今相勤申候、御山見立候節、御百性衆稼之杉在之所は除被申候而傍示相定被申候、然共凡五ヶ年は可在御座と奉存候処、当年迄式年相勤候存之外炭木少ク、炭竈式拾余不足可仕と奉存候、尤今一兩年は炭木払底不仕候得共伐尽奉願候而は人夫大分入増迷惑仕候、未炭木御座候内遠近取合鉄吹申儀勝手ニ罷成候二付、此節奉願候、吹子数定り被為仰付、鉄山ハ前々傍示無御座候得共、猥りニ不仕様ニと傍示被仰付候、御百性衆構ニ不成所、又は重而引山甲斐ニ不成御山、御百性衆立合、傍示之外ニ而右之炭竈仕候様ニ被為仰付被下候は難有可奉存候、五ヶ年之通鉄吹続候儀難仕御座候二付、乍恐奉

願候

右之通被為聞召分被下候は難在可奉存候、以上

元禄十四年極月
源右衛門
本郷沢右衛門殿
杉岡林右衛門殿
右願口記付候

天和式丑ノ年、公文村ノ内溝谷鉄山炭木不足ニ付服部六左衛門様御代願書、八ヶ月分鉄吹申炭木申請添候古証文、則願書古証文留書帳ニ在之候、服部六左衛門様御代之例ニまかせ奉願木山申請候

【72】

乍恐奉願候御事

一播州完栗郡御支配所公文村之内手洗洩鉄山、去ル寅ノ六月より来午ノ五月迄中年四ヶ年限、一ヶ年御運上銀六拾枚宛ニ而御請仕、来午ノ五月ニ而年季明申候、近年米高直ニ而大分損失仕勝手致迷惑候得共、鉄山仕続候は米下直之時節も到来可仕かと奉存、仕替山見立候得共、炭木伐尽或ハ伐跡若木山旁ニ而、当分鉄山引可申御山無御座候、但馬境倉床村之内富土野山、南ハ青名谷川○限、○倉川限西ハ公文村之山境限、東北ハ但馬

境峯限、鑪一ヶ所漸四ヶ年可在御座哉と奉
存候、然共此御山鉄砂場所より道法遠ク、
駄賃大分入増、其上岩山ニ而炭竈又ハ道橋
等大分人夫入可申と奉存候半端山にて御座
候得共、外ニ木山無御座候ニ付、鉄山ニ仕
立可申と奉存候、然共抱之者斗ニ而は普請
難仕立御座候ニ付、御百性衆耕作手透之時
分、賃銀ニ而雇之助力ニ仕候は、未ノ六月
より鉄吹候様ニ罷成可申と奉存候、此度奉
願候趣は、唯今請所手洗淵山、来午ノ六月
より未之五月迄、今一ヶ年抱之者共其俣差
置、末木枝木取集、少宛鉄吹申内ニ、右富
土野山普請も連々ニ仕立申度奉存候、此御
山鉄砂場所より道法遠ク、其上難所ニ御座
候ニ付、御運上少々差上奉願度奉存候得共、
連々之普請ニ仕候儀勝手ニ罷成候間、御運
上之儀一ヶ年ニ銀四拾枚宛差上、御請仕度
奉存之旨奉願候處、御運上減候ニ付段々御
吟味之上、御取上被遊候、然共此御山之義
右申上候通失却多御座候得は、御運上多ク
差上申儀難仕奉存候得共、私義往古より鉄
山仕来候得は、断絶仕候儀抱之人夫稼無御
座迷惑奉存候間、一ヶ年ニ五枚増、四拾五
枚宛差上可申候、手洗淵山・富士野山両所
ニ而年季候儀は、午ノ六月より亥ノ五月迄

中年五ヶ年限、御運上都合式百式拾五枚差
上御請仕度奉存候御事

一 鉄山入用米之儀、手洗淵山江は御年貢米之
内一ヶ年六百石宛申請候得とも、米高直ニ
付雜穀を用可申と奉存ニ付、午ノ秋より一
ヶ年御米五百石宛被仰付可被下候、代銀之
儀は其年ノ三分一御直段並、前々之通三月・
七月・極月三ヶ度差上可申御事

一 鉄砂口之儀、御定之通六口流可申候、流来
之所山悪鋪罷成候は、前之通私勝手次第何
方ニ而成共被仰付可被下候御事

一 竈土之儀、請所之内ニ無御座候は、前々之
通何方ニ而も私勝手次第御取せ被為成可被
下御事

附 鑪竹之儀、前之通鉄山近辺之村ニ而被
為仰付可被下候、六寸廻程之竹壺ヶ年ニ
五拾本或ハ三拾本程毎年入申候、若近村
御林ニ右之竹無御座候は、私自分ニ調可
申候

一 鉄山抱之者共菜雜事畑ハ、請所之内ニ而作
可申候、馬ノ草苜申儀、請所之内無御座候
ハ、前々之通野山之内ニ而被為仰付可被下
候御事

右富士野山連々普請不仕候而ハ、鉄山ニ仕
立候事難仕御座候ニ付、手洗淵山一ヶ年御

運上銀差上前方より奉願候被為聞召分被為
仰付被下候は、鉄山断絶不仕難在可奉存候、
御下次次第慥成家質請人相立御請可仕候、
以上

元禄十四年辛巳十二月
千草屋
源右衛門
遠藤新兵衛様

右鉄山願之通被仰付候ニ付、三月十九日大
坂御やしきニ而、沢右衛門殿・林右衛門殿
仰付候

右は拙者御代官所播州完栗郡公文村之内手
洗淵鉄山、去ル寅ノ六月より当午五月迄中
年四ヶ年限、壺ヶ年ニ御運上銀六拾枚宛ニ
而、同国山崎町千草屋源右衛門と申者御請
負仕候所、当五月ニ而年季明申ニ付此仕替
山之儀、同郡倉床村之内富士野山、南ハ青
名谷川・倉谷川限、西ハ公文村之山境限、
東北は但馬境峯限、四ヶ年鉄吹申程炭木可
有御座候、然共只今迄之鉄砂場所より道法
遠ク駄賃大分掛、其上岩山ニ而炭竈又ハ道
橋普請二人夫入用失却多ク掛候得共、外ニ
木山無御座候ニ付、右富士野鉄山ニ相願申
候、然共急普請仕立申ニハ大分物入懸り、

普請難仕立御座候間、近村百姓作間之時分、

賃銀を以連々と普請仕度候、其内ハ只今迄

之鉄山手洗澍ニ而末木枝木取集、鉄吹申内、

右富士野山普請も出来可申候間、当年六月

より未五月迄ハ手洗澍、未六月より亥五月

迄ハ富士野両所、年季合五ヶ年、此御運上

壹ヶ年ニ銀四拾枚宛差上御請負仕度旨願書

差上候ニ付、吟味仕候処、跡々より御運上

減候而ハ難相窺候間、御運上増候而相願候

様ニと再三吟味仕候所、左候ハ、五枚宛増

之、壹ヶ年四拾枚宛、五ヶ年分合貳百貳拾

五枚差上ケ御請負仕度旨、願書差出申候、

右富士野山之儀、殊外成嶮岨ニ而御座候得

ハ、願人申候通道橋普請物入、又ハ鉄砂駄

賃等迄跡々より余程入用増申候儀紛無御座

候、勿論右木山嶮岨ニ而通路難成場所ニ御

座候故、焼炭薪材木ニ仕候而ハ稼ニ成不申

場所ニ御座候間、右之通之仰付可然奉存候、

於然は慥成請人家質等可申付候、且又鉄山

飯米之儀、手洗澍は壹ヶ年米六百石宛売渡

申候所、此度は壹ヶ年ニ米五百石宛申請度

旨相願候間、右之通売渡、代銀ハ其年之三

分一直段を以、跡々之通三月・七月・極月

三度ニ取立、御勘定仕組差上可申候、如何

可被仰付候哉奉窺候、以上

遠藤新兵衛

元禄十五年午二月

御勘定所

書面之其方御代官所播州完栗郡公文村之内

手洗澍鉄山請負之儀、当五月迄ニ而年季明

候由、只今迄之場所ハ鉄吹候炭木無之ニ付、

同郡倉床村○之内富士野山ニ而鉄吹申度由願出候ニ付吟味被遠候所
倉床村之儀ニ而入用多ク掛り候得共、外ニ鉄吹可申山

無之ニ付、右富士野山ニ而壹ヶ年ニ運上銀

四拾枚差出し請負度旨願候由、然共只今迄

之運上よりは下直ニ候故、増銀被申付、壹

ヶ年四拾五枚宛之積り、家質差出シ、五ヶ

年請負度由願候ニ付、右之通申付可然旨令

承知候、且又鉄山飯米之儀、只今迄は壹ヶ

年ニ米六百石宛売渡シ被申候得共、此度は

壹ヶ年ニ米五百石宛之積り相願候旨、右之

通売渡し代銀之儀、其年之三分一直段を以

取立可被申旨被遂吟味事ニ候条書面之通被

申付、尤家質入念取置可被申候、断は本文

ニ有之候、以上

久貝因幡守

井戸対馬守

荻原近江守

戸川備前守

竹村権左衛門

午二月

遠藤新兵衛殿